

# CA Spectrum®

## オペレータガイド

リリース 9.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複製、譲渡、開示、変更、複製することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、  
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負いません。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

## CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。



# 目次

---

<b>第 1 章: OneClick コンソールを使用する前に</b>	<b>9</b>
OneClick および CA Spectrum の概要.....	9
OneClick クライアントの設定方法.....	11
[クライアント詳細] Web ページの表示.....	12
<b>第 2 章: OneClick コンソール ユーザ インターフェース</b>	<b>13</b>
OneClick コンソール ユーザ インターフェースの概要.....	13
ナビゲーション画面.....	14
[エクスプローラ] タブ.....	15
[ロケータ] タブ.....	15
コンテンツ画面.....	16
コンポーネント詳細画面.....	16
OneClick のタブ.....	17
OneClick のツールバー.....	23
ツールバーの非表示.....	24
メイン ツールバー.....	24
[アラーム] ツールバー.....	25
トポロジ ツールバー.....	26
[ネイバー] ツールバー.....	27
OneClick のステータス バー.....	27
<b>第 3 章: OneClick の使用とカスタマイズ</b>	<b>29</b>
OneClick パスワードの変更.....	29
[お気に入り] フォルダ.....	29
SPECTRUM_BROWSER 変数の設定.....	30
OneClick の基本設定.....	31
[アラーム] タブの基本設定.....	32
[イベント] タブの基本設定.....	34
電子メールテンプレート.....	37
一般基本設定.....	39
[エクスプローラ] タブの基本設定.....	41
[ロケータ] タブの基本設定.....	42
[トポロジ] タブの基本設定.....	43

テーブル基本設定.....	44
ランドスケープの選択.....	45
OneClick の画面.....	46
画面のドッキングおよびドッキング解除.....	46
画面のクローン.....	47
コンポーネント詳細画面からのテキストのコピー.....	47
OneClick への URL の挿入.....	48

## 第 4 章: OneClick でのネットワークの監視 49

グローバル コレクション.....	49
ネットワーク検索.....	50
ネットワークの検索.....	51
単一属性に対する複数値の検索.....	52
アラームの管理.....	53
[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックス.....	53
アラームのフィルタ.....	55
システムによってクリアされたアラーム.....	60
アラーム属性の更新.....	62
アラームのスヌーズ設定.....	63
アラームのスヌーズ解除.....	64
アラームのトラブルシュータ.....	64
イベントの管理.....	68
イベントのメール送信.....	68
イベントフィルタリング.....	69
[イベント フィルタ] ダイアログ ボックス.....	69
インターフェース情報.....	75
サブインターフェース.....	78
インターフェースのコンポーネント詳細ウィンドウ.....	79
モデル関係の強調表示.....	82
[トポロジ] タブでのモデル関係の強調表示.....	82
モデリングされたデバイスのハイライト表示.....	83
接続ステータス インジケータ.....	85
接続ステータスの確認.....	85
OneClick メッセージ.....	86
OneClick のスケジュール.....	86
スケジュールのアクセス.....	87
スケジュールの作成.....	88
DSS 環境の OneClick スケジュール.....	89
繰り返しスケジュール.....	91

---

<b>第 5 章: デバイスの保守モードとハイバネーション モード</b>	<b>93</b>
保守モードとハイバネーション モード .....	93
デバイスの保守モードの設定 .....	94
保守モードのスケジュール .....	95
デバイスで保守スケジュールが設定されているかどうかの確認 .....	96
デバイスのハイバネーション モードの設定 .....	97
メンテナンスの後にハイバネート .....	98
インターフェース モデルの保守モードまたはハイバネーション モードの設定 .....	99
保守またはハイバネーション モードにおけるワイドエリア リンク モデルの配置 .....	100
保守モードまたはハイバネーション モードのデバイスのイベントおよびアラームの中断 .....	101
セカンダリ アラームと保守モードのデバイス .....	102
インターフェースとアプリケーションの茶色のアラームの表示 .....	102
<b>第 6 章: OneClick からのデータとイメージのエクスポート</b>	<b>103</b>
テーブルデータのエクスポート .....	103
テーブルデータのコピーと貼り付け .....	104
ボード、ポート データを格納したエクスポート済み CSV ファイルの修正 .....	105
トポロジ ビューをイメージファイルとしてエクスポート .....	105
<b>付録 A: キーボード ショートカット</b>	<b>107</b>



# 第 1 章: OneClick コンソールを使用する前に

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick および CA Spectrum の概要](#) (P. 9)

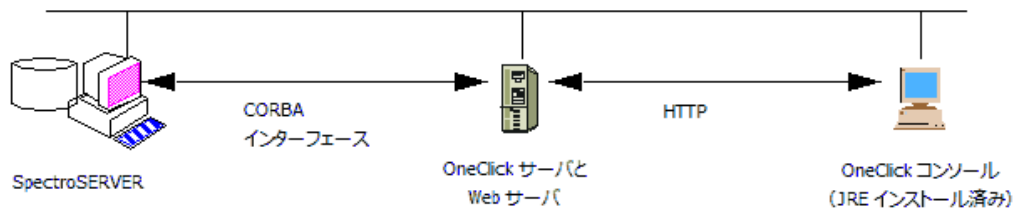
[OneClick クライアントの設定方法](#) (P. 11)

[\[クライアント詳細\] Web ページの表示](#) (P. 12)

## OneClick および CA Spectrum の概要

OneClick は、直観的なグラフィカルユーザ インターフェースを使用して、CA Spectrum の情報をネットワーク オペレータおよびトラブルシュータに提供します。OneClick により情報へのカスタマイズされたアクセスが提供され、CA Spectrum が管理するネットワークの特定領域の監視またはトラブルシューティングを行うユーザ用のツールも備えています。

OneClick のアーキテクチャでは、Java Network Launch Protocol (JNLP) と Java Web Start アプリケーションを使用して、リモートのシステムおよびユーザが OneClick サーバにアクセスできるようにしています。JNLP は、従来のインストーラや実行可能コードの起動を必要としない、アプリケーション配信標準です。インストールの後、OneClick コンソールは、デフォルトで Windows の場合はポート 80、UNIX および Solaris の場合はポート 8080 を使用して、OneClick サーバ上の Web サーバと通信します。Web サーバは、以下の図に説明するように、CORBA インターフェースを使用して SpectroSERVER の 1 クライアントとして通信します。



以下の CA Spectrum および OneClick ガイドでは、OneClick のインストール、カスタマイズ、保守に関連する情報を提供します。

- 「インストールガイド」には、OneClick サーバおよびクライアントのインストールに関する詳細な説明が記載されています。
- 「管理者ガイド」は、OneClick 環境、アプリケーション、ユーザを設定し管理する方法に関する情報を提供します。
- 「OneClick カスタマイズガイド」には、XML ファイルの変更や他の技術による OneClick インターフェースのカスタマイズについて記載されています。
- 「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」では、ネットワーク上のエレメントを検出およびモデリングするよう OneClick を設定する方法について説明しています。

## OneClick クライアントの設定方法

以下のプロセスでは、OneClick をセットアップおよび使用開始する方法を説明します。

注: これらの各手順の詳細については、「インストールガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. OneClick クライアントをインストールまたは実行する前に、ワークステーションが最小の OneClick クライアント要件を満たしていることを確認します。
2. JRE および JCEUnlimited Strength ファイルをインストールします。OneClick コンソールおよび OneClick アドオンアプリケーションでは、Java Runtime Environment (JRE) および JCEUnlimited Strength ファイルが必要です。JRE には、Java Network Launching Protocol (JNLP) アプリケーションの実行に必要な Java Web Start クライアントが含まれています。

JCEUnlimited Strength ファイルは OneClick の暗号化要件に必要です。OneClick ホームの Web ページから、JRE 1.7.0\_60 および JCEUnlimited Strength ファイルをインストールできます。これらの 2 つのコンポーネントをインストールするには、OneClick ホーム ページの [JRE および JCEUnlimited Strength Files のインストール] オプションをクリックして、その後の手順に従います。

JRE および JCEUnlimited Strength ファイルをインストールしたら、OneClick を起動できます。

CA Spectrum 9.4 で使用可能な JCEUnlimited Strength ファイルは、JRE 7 のみと互換性があります。すでに JRE 7 がある場合には、JRE バージョン 7 に JCEUnlimited Strength ファイルを配置します。JRE 7 がない場合には、まず JRE 7 をインストールしてから、JRE 7 に JCEUnlimited Strength ファイルを配置します。

注: JCEUnlimited Strength ファイルを JRE7 に配置せずに OneClick を起動しようとする、そのアクションを促すポップアップメッセージが表示されます。[OK] をクリックし、必要な手順を実行します。

3. Java Web Start に .jnlp ファイルを関連付けます。
4. OneClick コンソールを起動します。

## [クライアント詳細]Web ページの表示

OneClick の [クライアント詳細] ページでは、開いたクライアントを表示できます。また、このページでクライアントからログアウトできます。

**注:** この Web ページは最新のクライアント情報に自動的に更新されません。最新情報になっていることを確認するには、ブラウザ内でページを再ロードします。

### [クライアント詳細]ページを表示する方法

次の手順に従ってください:

1. Web ブラウザで `http://<webserver>/spectrum/index.jsp` に移動します。  
OneClick ホーム ページが表示されます。
2. [クライアント詳細] リンクをクリックします。  
[クライアント詳細] Web ページが表示され、[ログオンクライアント] テーブルが表示されます。

### [クライアント詳細]ページを使用してクライアントをログオフする方法

次の手順に従ってください:

1. [ログオンクライアント] テーブルで、ログアウトするクライアントのユーザ名の隣のチェック ボックスをオンにします。
2. [クライアントのログオフ] をクリックします。  
確認ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [OK] をクリックします。  
クライアントがログアウトされます。

**注:** [クライアント詳細] ページにアクセスする管理者は、現在ログインしているユーザをすべて表示できます。詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

# 第2章: OneClick コンソール ユーザ インターフェース

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick コンソール ユーザ インターフェースの概要 \(P. 13\)](#)

[ナビゲーション画面 \(P. 14\)](#)

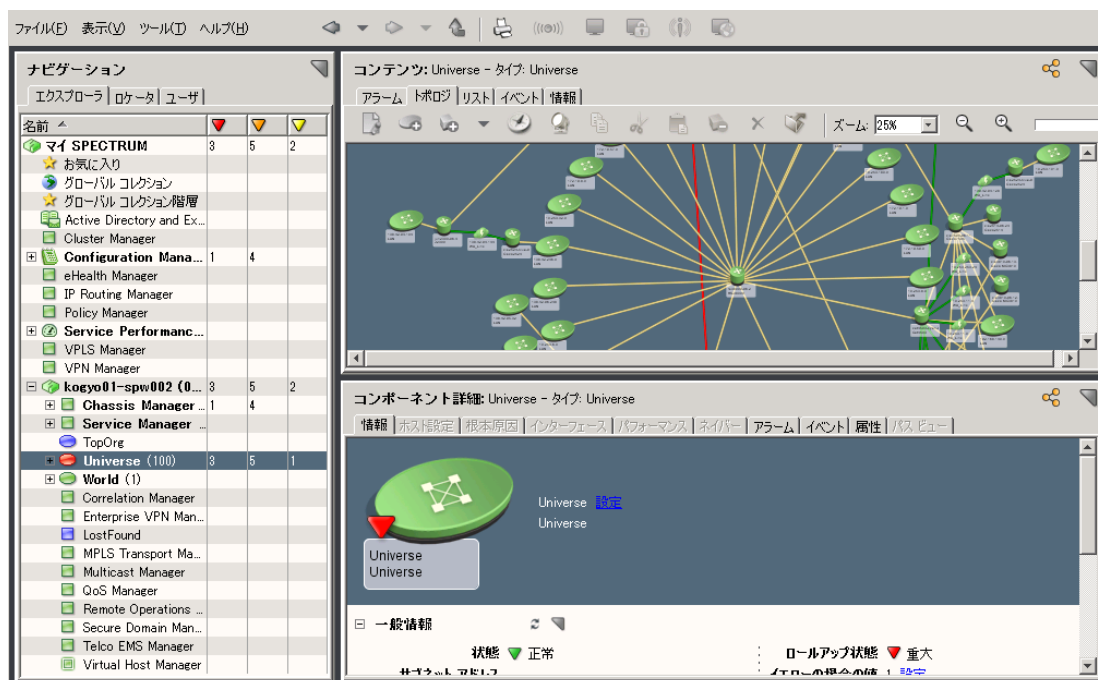
[コンテンツ画面 \(P. 16\)](#)

[OneClick のツールバー \(P. 23\)](#)

[OneClick のステータスバー \(P. 27\)](#)

## OneClick コンソール ユーザ インターフェースの概要

OneClick コンソール ユーザ インターフェースは、ナビゲーション画面、コンテンツ画面、コンポーネント詳細画面の3つの画面で構成され、ネットワークアセットに関する情報を表示します。以下の画像は、OneClick コンソール ユーザ インターフェースの例を示しています。



各パネルに表示される情報は、ナビゲーション画面で選択されているアイテムによって異なります。各画面は異なるコンテキストを表示します。コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面のタイトルで、コンテキストを説明しています。コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面のタブには、デバイス、アラーム、イベント、および特定のアイテムに関するその他の情報の詳細なリストが表示されます。

パネルのドッキング、クローニング、または削除により、表示をカスタマイズできます。

**注:** OneClick コンソールは、VPN Manager、Service Performance Manager、Multicast Manager、Service Manager など、複数のアドオンアプリケーションをサポートします。詳細については、それらのアプリケーションとともに提供されるユーザドキュメントを参照してください。

## ナビゲーション画面

ナビゲーション画面を使用して、ネットワークアセットに関する情報にアクセスすることができます。ナビゲーション画面には以下のものが表示されます。

- アラームビュー
- トポロジビュー
- デバイスリスト
- イベントビュー
- デバイス詳細情報
- コンテナ
- ランドスケープ
- OneClick アプリケーション
- 検索

ナビゲーション画面は、OneClick のデフォルトユーザインターフェースの左側にあります。OneClick オペレータが使用できるのは [エクスプローラ] タブと [ロケータ] タブの 2 つです。

## [エクスプローラ]タブ

ナビゲーション画面の [エクスプローラ] タブには、ランドスケープ、コンテナ、OneClick アプリケーション、デバイス モデルの階層ビューが表示されます。このビューでは、コンテナアイコンとデバイスアイコンが各コンテナおよびデバイス モデルのモデル クラスとステータスを示します。組織の OneClick 管理者は、デバイスのモデリングによって、[エクスプローラ] タブにビューを作成し、ネットワーク インフラストラクチャを表しています。

**注:** 表示権限を持っていないコンテナの子オブジェクトだった場合、OneClick はエクスプローラ ビューからコンテナおよびデバイスをフィルタします。

[エクスプローラ] タブは、各コンテナおよびアプリケーション内のデバイスに対してアクティブなアラームについての概要レベルのビューを表示します。[エクスプローラ] タブのデフォルトのアラーム ビューは変更することができます。詳細については、「[列のカスタマイズ \(P. 44\)](#)」を参照してください。

[エクスプローラ] タブを使用してコンテナを選択します。その後、コンテンツ画面内で、選択した情報、アラーム、イベント、リスト、およびトポロジを表示できます。また、OneClick アプリケーションの [名前] 列を選択して、選択した情報、アラーム、イベント、リスト、およびトポロジを表示できます。また、必要に応じて、[エクスプローラ] タブ内のコンテナおよびアプリケーションを展開したり、折りたたむことができます。

**注:** [エクスプローラ] タブ内のアイテムは番号順に並べられます。

## [ロケータ]タブ

[ロケータ] タブでは、ネットワーク アセット (デバイスおよびアプリケーション モデル) を探して詳細を表示するための検索機能が提供されます。検索結果はコンテンツ画面の [結果] タブに表示されます。結果リストで選択されたネットワーク アセットに関する詳細情報は、コンポーネント詳細画面に表示されます。

詳細情報:

[ネットワークの検索 \(P. 51\)](#)

## コンテンツ画面


コンテンツ画面は、OneClick インターフェースの右上にあります。コンテンツ画面に表示される情報は、ナビゲーション画面で設定されたコンテキストによって異なります。ナビゲーション画面内の [ロケータ] タブがアクティブタブである場合、[結果] タブがコンテンツ画面に表示されます。[結果] タブは、最新のユーザセッションで実行された最後の検索の結果を表示します。ナビゲーション画面で [エクスプローラ] タブがアクティブタブである場合、選択されたデバイス、コンテナ、またはアプリケーションの [アラーム] タブ、[トポロジ] タブ、[リスト] タブ、[イベント] タブ、および [情報] タブがコンテンツ画面に表示されます。デフォルトでは、[アラーム] タブがコンテンツ画面でアクティブタブになります。

## コンポーネント詳細画面

コンポーネント詳細画面には、コンテンツ画面で選択されたアイテムの詳細情報が表示されます。以下の図は、コンポーネント詳細画面の例です。

コンポーネント詳細: 138.42.94.90 - タイプ: Catalyst 5000

アラーム詳細 | 情報 | 影響度 | ホスト設定 | 根本原因 | インターフェース | パフォーマンス | アラーム履歴 | ネットワーク | イベント

 高いメモリ使用率  
2009/10/28 15:15:31 JST  
高いメモリ使用率です。メモリ インスタンス 2 のメモリ使用率 87 % が、許容される期間以上、モデル 138.42.94.90 の 85 % 以上の値を超過しました。

138.42.94.90  
Catalyst 5000

重要度 ▼ マジャー  
影響度 0  
確認済み [設定](#)

クリア可 はい

トラブル チケット ID [設定](#)

割り当て

ランドスケープ e11n633-07-vm30 @x100000  
ステータス [設定](#)

Web コンテキスト URL

兆候 ネットワーク デバイスのパフォーマンスを落とす可能性があります。デバイス上のサービスが応答できませ

1) Telnet のレスポンスが遅い、または Telnet がデバイスにアクセスできない  
2) コンソール上の応答が遅い  
3) PING へのレスポンスが遅い、またはレスポンスがない

想定される原因 1) 可能なセキュリティの問題。一般的に、高いメモリ使用率は、ご使用のネットワーク中でセキュリティの問題によって引き起こされます。特にネットワークをしばらくの間変更していないことが原因  
2) デバイスの過負荷。おそらく、デバイスは現在のロードをサポートするには設定されていない  
3) メモリリークにより、デバイスが使用可能なメモリを消費します。

アクション 高いメモリ使用率については、デバイスベンダーから推奨されたトラブルシューティングに従って

## OneClick のタブ

OneClick は、コンテンツ画面とコンポーネント詳細画面に表示されるタブで情報を分類します。表示されるタブはコンテキストによって異なります。これは、ナビゲーション画面内の現在の選択内容に応じます。以下の一覧は、これらの OneClick タブについて詳しく説明したものです。

### [アラーム]タブ

コンテキストに応じて、コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面に表示されます。

### [アラーム詳細]タブ

コンポーネント詳細画面に表示され、[アラーム] タブで選択されたアラームに関する詳細情報を表示します。

### [トポロジ]タブ

手動で、またはディスカバリによって作成されたネットワーク トポロジモデルを表示します。

### [リスト]タブ

[エクスプローラ] タブで選択されているコンテナのすべてのモデルを表示します。

### [イベント]タブ

[エクスプローラ] タブまたはコンテンツ画面のいずれかで現在選択されているコンテナ、モデル、またはアプリケーションのイベントを表示します。選択されたモデルのアラームおよびイベントがすべて含まれます。

### [情報]タブ

選択されたコンテナ、デバイス、またはアプリケーションに関する詳細を表示します。

### ホスト設定

デバイス設定ファイルをキャプチャ、表示、アップロード、およびエクスポートします。

注: 詳細については、「Network Configuration Manager ユーザ ガイド」を参照してください。

### [影響度]タブ

選択されたアラームの影響度および兆候を表示します。

注: [影響度] タブ内のデバイスの状態は必ずしも現在のデバイス状態を反映するとは限りません。

### [根本原因]タブ

ダウンしているデバイスのための根本原因を表示します。根本原因が有用であるのは、デバイスに複数のアラームがある場合です。[日付/時刻]列で各アラームの発生日時を参照できます。アラームの状態、モデル名、アラームタイトル、その他の情報も他の列に表示されます。

### [インターフェース]タブ

選択されたアラームまたはデバイスのインターフェース情報を表示します。

### [パフォーマンス]タブ

CPU およびメモリ使用率など、選択されたデバイスのパフォーマンス情報を表示します。

### [アラーム履歴]タブ

関連イベント、ステータス、作成日時、クリア日時など、選択されたアラームの履歴情報を表示します。一般的なデバイスアラーム履歴については、[イベント] タブを使用します。

### [ネイバー]タブ

[エクスプローラ] タブまたはコンテンツ画面のいずれかで選択されているモデルと、そのモデルに直接接続しているモデルを表示します。

## [アラーム]タブ

[アラーム]タブには、ナビゲーション画面の [エクスプローラ] タブで選択されたデバイス、コンテナ、またはアプリケーションに存在するアラームが表示されます。OneClick 管理者は、利用可能なアラームのサブセットのみを表示するためにあらかじめアラームのビューを設定しています。

[アラーム] タブでアラームを選択すると、そのアラームの詳細情報がコンポーネント詳細画面に表示されます。[アラーム] タブ上部に表示されるツールバーを使用して、OneClick ですばやくアラームを処理することができます。

詳細:

[\[アラーム\] ツールバー \(P. 25\)](#)

## アラーム重要度の色

OneClick は、警報音アラートと色を使用して、アラームの重大度を識別します。以下の表に、OneClick アラーム重大度の色とその定義を示します。

色	重大度	説明
青	初期	デバイスとの接続が確立されていません。
グレー	抑制	別のデバイスに存在する既知のエラー状態によって、デバイスにアクセスできません。
ブラウン	保守	保守目的でデバイスがオフラインになっています。
赤	重大	サービスの中断が発生しました。ただちにアクションが必要です。
オレンジ	メジャー	サービスの中断が発生または警告されています。短時間のうちにアクションが必要です。
黄色	マイナー	ただちにアクションを実行する必要がない状況が発生しました。 この重要度は、「IP の重複」などの情報伝達目的のみで作成されたアラームに使用されることもあります。
緑	正常	デバイスと接続されています。デバイスは正常に動作しています。このデバイスに関連付けられたアラームはありません。

詳細:

[デバイスの保守モードの設定 \(P. 94\)](#)

### [アラーム]リストの列

テーブル内の列は、[アラーム] タブに表示される各アラームの情報を分類します。デフォルトのアラーム情報のカテゴリには、重要度、日付/時刻、名前、ネットワーク アドレス、タイプ、確認済み、アラーム タイプ、ランドスケープなどがあります。OneClick アドオンアプリケーションがインストールされている場合、他のカテゴリがあります。また、OneClick 管理者はカスタム アラーム カテゴリを作成できます。

[アラーム] リストに表示する列を選択できます。OneClick のすべてのテーブル列と同様に、列見出しをクリックすることによって、各列の内容に基づいてソートできます。ソート順序を切り替えるために列見出しをクリックします。

詳細:

[テーブル基本設定 \(P. 44\)](#)

### [アラーム]リストのフィルタ

[アラーム] リストは以下のようにフィルタできます。

- [フィルタ] ドロップダウンリストから [表示] または [非表示] を選択し、[フィルタ] テキストボックスにテキストを入力します。入力すると、[アラーム] リストには [フィルタ] フィールドの現在のテキストに一致する属性を持つアラームのみが表示、または非表示にされます。

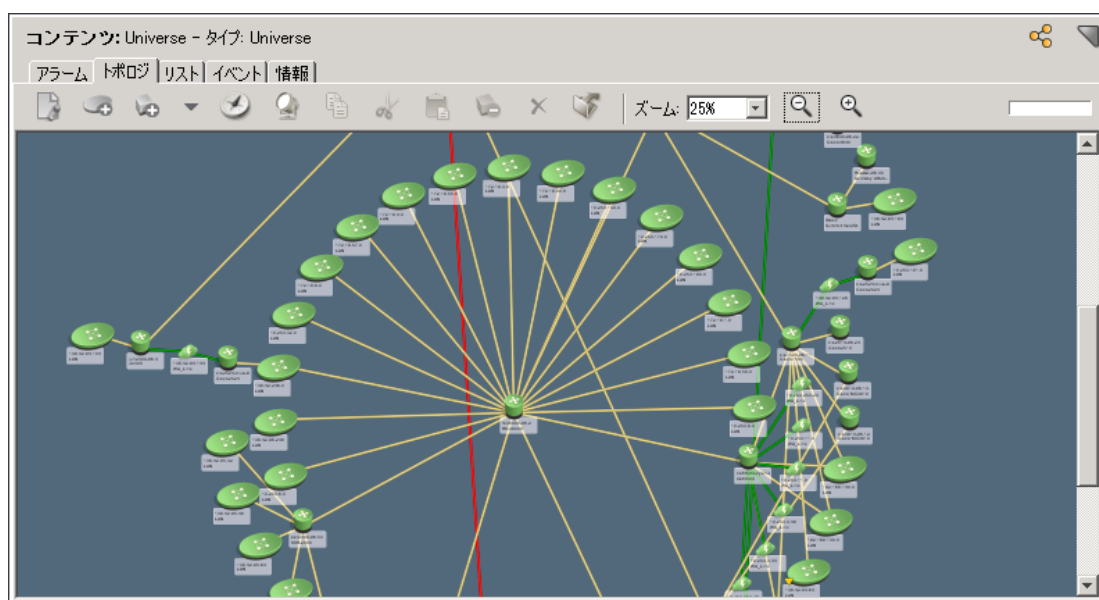
この動作は [フィルタ] ドロップダウンリストの選択内容によって異なります。たとえば、[フィルタ] ドロップダウンリストから [表示] を選択し、テキストボックスに「**crit**」と入力することにより、重大なアラームのみを表示します。

- 作成したアラーム フィルタは、保存して再利用することも可能です。

## [トポロジ]タブ

[トポロジ] タブはコンテンツ画面に表示され、選択されたコンテナおよびコレクションのネットワーク トポロジ図を表示します。[エクスプローラ] タブ内のコンテナまたはコレクションのビューを展開し、次に、そのコンテナ内の特定のデバイスを選択します。トポロジビューは、コンテンツ画面にそのデバイスを表示します。トポロジビューのアイコンをダブルクリックすると、ナビゲーション画面のコンテキストが変更され、そのデバイス、コンテナ、またはアプリケーションが表示されます。[エクスプローラ] タブで [マイ Spectrum] またはいずれかのランドスケープが選択されている場合、[トポロジ] タブは使用できません。

以下の図は、[トポロジ] タブの例です。



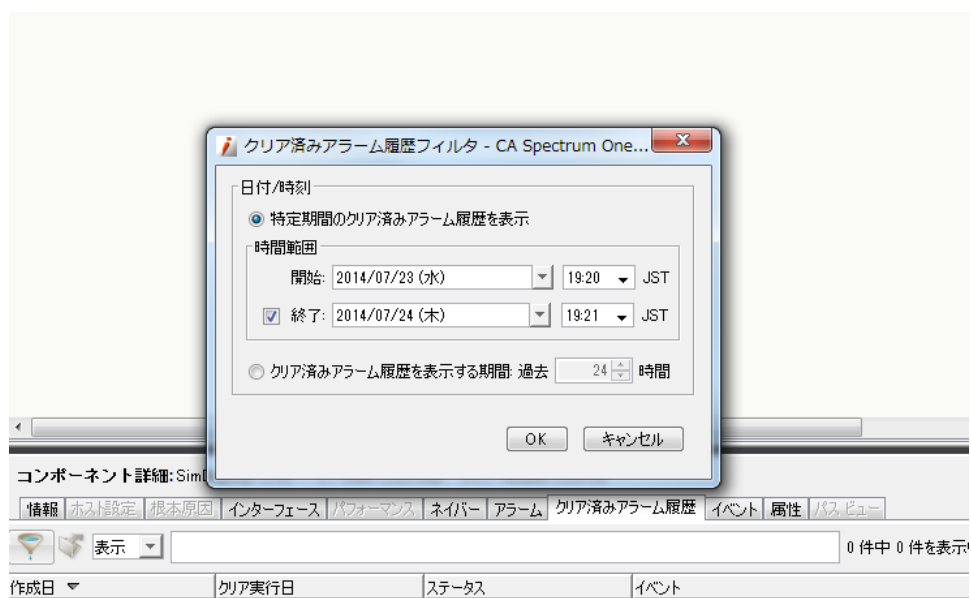
詳細情報:

[トポロジ ツールバー \(P. 26\)](#)

### [クリア済みアラーム履歴]タブ

[コンポーネント詳細] パネルから [クリア済みアラーム履歴] タブを表示できます。 [クリア済みアラーム履歴] タブには、選択されたモデルのクリアされたアラームに関する履歴情報が表示されます。履歴情報には関連するイベントおよび作成されたアラームやクリアされたアラームのステータスが含まれます。デフォルトでは、クリアされたアラームの履歴は過去 24 時間について表示されます。 [時間範囲] オプションを使用して、特定の期間のクリアされたアラーム履歴を表示できます。

次に示すのは、 [クリア済みアラーム履歴] タブの表示です。



### [リスト]タブ

[リスト] タブには、 [エクスプローラ] タブで選択されているコンテナのすべてのモデルが表示されます。

[エクスプローラ] タブでデバイスを選択すると、そのデバイスのコンテナのすべてのモデルが表示されます。モデルを追加、削除、または属性を更新した時に、このビューは更新されます。 [リスト] タブのエントリをダブルクリックすることによって、そのモデルを [エクスプローラ] タブで選択することができます。 [エクスプローラ] タブで [マイ Spectrum] またはいずれかのランドスケープが選択されている場合、このタブは使用できません。

## [結果]タブ

[結果] タブには、ナビゲーション画面の [ロケータ] タブで実行された検索の結果が表示されます。

## [イベント]タブ

[イベント] タブは、コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面に表示されます。 [イベント] タブは、 [エクスプローラ] タブまたはコンテンツ画面のいずれかで選択されているアイテムのイベントをすべて表示します。 [マイ Spectrum] を選択した場合、 [イベント] タブはコンポーネント詳細画面にのみ表示されます。

## [情報]タブ

[情報] タブは、コンテキストセットに応じて、コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面に表示されます。 [情報] タブには、詳細なデバイス設定情報、VLAN および VPN のコンフィギュレーション設定などが表示されます。 [エクスプローラ] タブで [マイ SPECTRUM] またはいずれかのランドスケープが選択されている場合、 [情報] タブは使用できません。

## OneClick のツールバー

ツールバーはいくつかの OneClick パネルおよびタブで利用可能です。 OneClick ツールバーは、グラフィック ボタンおよびアイコンを使用して、機能にすばやくアクセスできるようにしています。

## ツールバーの非表示

デフォルトでは、利用可能なすべてのツールバーは OneClick コンソールに表示されます。使用しないツールバーを非表示にできます。

次の手順に従ってください:

1. [表示] - [ツールバー] を選択します。







使用可能なツールバーをリストしたサブメニューが表示されます。表示できるツールバーにはチェックマークが付けられています。


2. チェックマークが付いたツールバーをクリックして、それを非表示にします。

メニューが閉じ、該当するビューからツールバーが削除されます。

## メイン ツールバー

OneClick コンソールの上部に表示されるメイン ツールバーには、多くの OneClick アプリケーションに共通のタスクを実行するためのボタンがあります。以下の表では、メイン ツールバーのボタンについて説明します。









ボタン	説明
	<b>ナビゲーション</b> : 最近アクセスしたビューに移動できます。矢印を使用して、リストからビューを選択できます。
	<b>上へ移動</b> : 階層の 1 つ上のレベルに移動します。 ツールヒントは次のレベルを示します。
	<b>PING</b> : デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスに ICMP Ping を送信します。
	<b>Telnet</b> : Telnet を使用して、デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスとの通信セッションを確立します。
	<b>セキュア シェル</b> : セキュア シェル (SSH) を使用して、デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスとの暗号化通信セッションを確立します。
	<b>ポーリング</b> : デバイスをモデリングする SpectroSERVER から選択されたデバイスで接続を開始します。




ボタン	説明
	<b>Web 管理</b> ：選択されたデバイスの IP アドレスを使用してブラウザを開きます。 WebAdminURL 属性を持つモデルに対してのみ使用可能です。

注: また、[ファイル]、[表示]、[ツール] メニュー、または右クリックメニューから、メインツールバーの機能にアクセスすることもできます。この選択内容は、現在のビューによって異なります。

## [アラーム]ツールバー

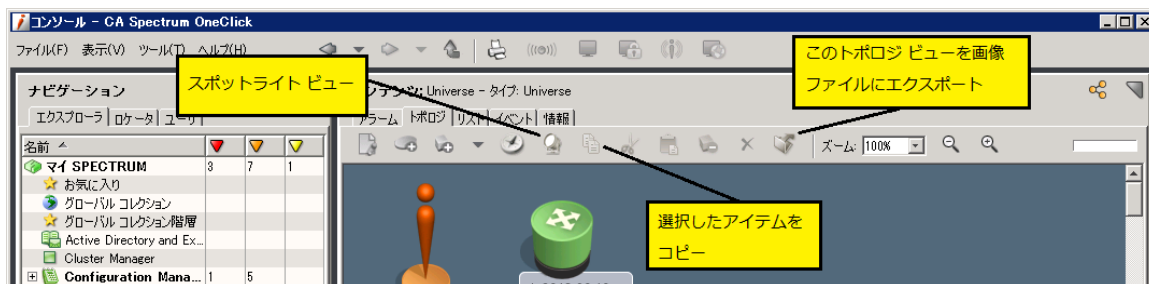
[アラーム] ツールバーを使用すると、OneClick のアラームをすぐに処理できます。以下の表は、[アラーム] ツールバーで使用可能なボタンと機能について説明したものです。

ボタン	説明
	<b>情報ボタン</b> ：テーブルで現在選択されているアラームに関する詳細が含まれるダイアログボックスを開きます。
	<b>選択したアラームをクリア</b> ：選択されたアラームをクリアします。クリアされたアラームは、[アラーム] テーブルから削除されます。
	<b>選択したアラームを確認</b> ：選択したアラームを確認します。
	<b>選択したアラームの確認を解除</b> ：以前に確認した、選択したアラームの確認を解除します。
	<b>トラブルシュータの割り当て</b> ：選択されたアラームへのトラブルシュータを割り当てることができる [トラブルシュータの選択] ダイアログボックスを開きます。
	<b>トラブルシュータの割り当て解除</b> ：選択したアラームからトラブルシュータを削除します。
	<b>選択されたアラーム上のアラーム属性を更新</b> ：トラブル チケット番号または確認など、あるアラーム属性に対する値を更新できるアラーム属性の更新ダイアログボックスを開きます。
	<b>電子メール</b> ：[選択したアラームを電子メールで送信] ダイアログボックスを開きます。ここから受信者に対してアラームを電子メール送信できます。

ボタン	説明
	<b>スヌーズ解除</b> ：以前にスヌーズを設定したアラームをすべてスヌーズ解除します。
	<b>アラームフィルタ</b> ：アラームフィルタを作成できます。
	<b>エクスポート</b> ：[アラーム] リストをエクスポートするためにファイル形式と場所を指定します。
フィルタ	<b>フィルタ</b> ：現在の [アラーム] リストビューをフィルタするためにテキストを入力します。[フィルタ] ドロップダウンリストから [表示] または [非表示] を選択し、フィルタ一致を表示するか、非表示にするかを指定します。

## トポロジ ツールバー

[トポロジ] ツールバーは、コンテンツ画面の [トポロジ] タブに表示されます。以下の図は、[トポロジ] ツールバーの例です。



[トポロジ] ツールバーを使用して、以下のタスクを実行できます。

- ルータ冗長性、設定済みの VLAN、VPNs、および LSP パスを強調（スポットライト）表示する。

**注**：MPLS マネージャをインストールしていない場合、LSP Path スポットライトは使用できません。VPN Manager をインストールしていない場合、VPN スポットライトは使用できません。

- 選択したアイテムをバッファにコピーし、別の OneClick フィールドまたは別のアプリケーションに貼り付けられるようにする。

- 選択したトポロジビューのコンテンツをファイルにエクスポートする。
- ズームインまたはズームアウトにより、現在のセッションに対するトポロジタブビューを調節する。

注: 管理者権限を持つユーザは、[トポロジ] ツールバーの編集ツールにもアクセスできます。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

## [ネイバー]ツールバー

[ネイバー] ツールバーは、コンポーネント詳細画面の [ネイバー] タブに表示されます。[ネイバー] ツールバーは [トポロジ] タブ ツールバーのように機能します。ただし、スポットライト ボタンはありません。

詳細情報:

[トポロジツールバー \(P. 26\)](#)

## OneClick のステータス バー

ステータス バーは OneClick コンソールの下部にあり、以下の機能を提供します。

- OneClick インフラストラクチャに関する情報を表示します。たとえば、OneClick に正確でリアルタイムのネットワーク情報を提供したサーバおよびサービスの接続ステータスを確認できます。
- OneClick 管理者からのメッセージを表示できます。
- 現在の OneClick セッション、および現在のクライアントが接続している OneClick サーバの名前にログインするために使用するユーザ名を識別します。
- [パスワードの変更] リンクを使用して、パスワードを変更することができます。



# 第 3 章: OneClick の使用とカスタマイズ

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[OneClick パスワードの変更 \(P. 29\)](#)

[SPECTRUM BROWSER 変数の設定 \(P. 30\)](#)

[OneClick の基本設定 \(P. 31\)](#)

[ランドスケープの選択 \(P. 45\)](#)

[OneClick の画面 \(P. 46\)](#)

## OneClick パスワードの変更

OneClick ホーム ページまたは OneClick コンソールのステータス バーから、OneClick パスワードを変更できます。

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかのロケーションに移動します。
  - OneClick ホーム ページの下部。
  - OneClick コンソール下部のステータス バー。
2. [パスワードの変更] リンクをクリックします。
3. 現在のパスワード、新しいパスワードを入力し、新しいパスワードを再入力します。

パスワードが変更されます。

## [お気に入り]フォルダ

[お気に入り]フォルダは、OneClick のすべてのユーザが、管理者のサポートなしで、自分用に設定および保守できます。

ナビゲーション画面の [エクスプローラ] タブで、ランドスケープレベルの下にある OneClick エlement を右クリックして [追加先] - [お気に入り] を選択することによって、Element を [お気に入り] フォルダに追加することができます。 [お気に入り] フォルダを右クリックして [コレクションの追加] を選択し、グローバルコレクションをお気に入りに追加することもできます。

[お気に入り] フォルダからエレメントを削除するには、[お気に入り] フォルダ内のエレメントを右クリックし、[削除] を選択します。

**重要:** エレメントを右クリックして [削除] を選択すると、エレメントは [お気に入り] フォルダから削除されるだけでなく、一部のモデルも、システムから永久に削除される場合があります。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理- 管理者ガイド」を参照してください。

[お気に入り] (または [お気に入り] 内のサブフォルダ) を右クリックして [新規フォルダ] を選択することによって、サブフォルダを作成することができます。サブフォルダの切り取り、コピー、貼り付け、名前変更、および削除には、右クリックメニューを使用します。

## SPECTRUM\_BROWSER 変数の設定

デフォルトでは、OneClick は Solaris システムまたは Linux システムで Mozilla Firefox ブラウザを使用します。(Solaris バージョン 9 で、デフォルトブラウザは Netscape です。) Windows システムについては、OneClick はシステム上で定義されたデフォルトブラウザを使用します。デフォルトの OneClick 設定を SPECTRUM\_BROWSER 環境変数でオーバーライドすることができます。

SPECTRUM\_BROWSER を環境の一部として定義します。選択したブラウザを起動するコマンドのフルパスを含めます。プレースホルダ {0} を使用して SPECTRUM\_BROWSER 変数に URL を指定します

(`<full_path_browser>/firefox.exe {0}`) 。

OneClick 内のリンクをクリックすると、URL リンクは {0} を置換します。

SPECTRUM\_BROWSER 変数は、他のプラットフォームまたはシステムのブラウザ選択変数より優先して使用されます。

## OneClick の基本設定

[基本設定] ダイアログ ボックスでは、OneClick のビューをカスタマイズできます。[一般] 設定、[アラーム] タブ、[エクスプローラ] タブなど、多数のカテゴリとアドオンアプリケーションに対して、OneClick で基本設定を行うことができます。[基本設定] ダイアログ ボックスから、これらの設定にアクセスできます。[基本設定] ダイアログ ボックスでトップレベルの基本設定グループを選択するとき、利用可能な基本設定およびそれらを編集するツールがすべて表示されます。

管理者のみが使用できる他の基本設定は、すべてのユーザまたはユーザのカテゴリに対して設定できます。

### 次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] 列で変更する個々の基本設定または基本設定グループのフォルダを展開します。
3. 必要に応じて、右側の画面で選択された基本設定に新しい値を入力します。

**注:** ダイアログ ボックスの下部にある [変更を永続的に適用] をオンにした場合、設定した基本設定がデフォルト設定になります。このオプションをクリアした場合、この変更は現在のセッションのみに適用されます。

4. [適用] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

基本設定が設定され、[基本設定] ダイアログ ボックスが閉じます。

## [アラーム]タブの基本設定

[基本設定] ダイアログ ボックスの [アラーム タブ] を使用し、OneClick アラームの設定を指定します。 変更可以使用できるアラームの基本設定およびカテゴリには、以下の属性があります。

### 割り当て時に確認

割り当て時にアラームを自動的に確認するかどうかを指定します。

### アラーム フィルタ

表示されているすべてのアラーム テーブルに使用されるフィルタを設定します。 [アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスにアクセスするには、[アラーム フィルタの設定] をクリックします。

### アラーム通知

アラームのポップアップアラートおよび音の設定を指定します。

#### 新規アラーム ポップアップアラート

新規アラームに対してポップアップアラートを表示するかどうかを指定します。 ポップアップの期間と透明度も指定できます。

#### 新規アラーム音

新規アラームの音による通知を有効または無効にします。 音による通知は、アラームが生成されたときに数と重要度を音声（男性の声）で通知します。

### アラーム テーブル

列の順序、使用可能な列、ソート、フォントなど、アラーム テーブルの表示方法の設定を指定します。

### デフォルト アラーム スヌーズ時間

デフォルト アラーム スヌーズ時間を指定します。 値は0より大きく、24 時間未満にする必要があります。

### 電子メール件名テンプレート

電子メール メッセージの [件名] 見出しに含めることができる、使用可能なテンプレートを指定します。

### 電子メール テンプレート

電子メール メッセージに含めることができる、使用可能なテンプレートを指定します。

## エキスパート クリア

選択されたアラームをクリアする際の確認を抑制します。

## 保守モード時にセカンダリを表示

保守モードのデバイスのセカンダリ アラームを表示するかどうかを指定します。

## トラブル チケット URL

トラブル チケット ID を含む URL を指定します。組織でのトラブル チケット管理システムの URL を設定します。指定すると、アラームのトラブル チケット番号がハイパーリンクとして表示され、Web ブラウザでトラブル チケットシステムの URL が表示されます。URL 文字列に「{0}」を指定することによって、実行時にトラブル チケット ID を URL に置換することができます。この置換を以下の例で示します。

```
http://acme/ticket?id={0}
```

## 初期アラームおよび抑制されたアラームの表示

**重要:** 初期アラームおよび抑制されたアラームの表示は OneClick では推奨されません。これらのアラームによって、かなりの量のネットワークトラフィックが生じる可能性があります。

ネットワークを管理する Virtual Network Machine (VNM) に対して [初期アラームの無効化] および [抑制されたアラームの無効化] 設定が無効な場合、初期および抑制されたアラームの状態を表示できます。OneClick 管理者権限を持つユーザのみが、これらの設定を変更できます。VNM の [アラーム管理] サブビューにある [初期アラームの無効化] 属性および [抑制されたアラームの無効化] 属性に移動します。

次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [アラーム タブ] フォルダを展開し、[アラーム フィルタ] を選択し、[アラーム フィルタの設定] ボタンをクリックします。  
[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [追加] をクリックします。  
[フィルタ名の入力] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 新しいアラーム フィルタの名前を入力し、[了解] をクリックします。

5. [アラームフィルタ] ダイアログ ボックスの [重要度] タブをクリックします。
6. 初期アラームおよび抑制されたアラームのカテゴリを選択し、クリックして [表示] リストに移動します。  
[OK] をクリックします。
7. [アラームフィルタ] ダイアログ ボックスが閉じます。
8. [OK] をクリックします。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが閉じます。
9. [エクスプローラ] タブの [名前] 列の見出しを右クリックします。  
[テーブル基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
10. [初期アラーム数] チェック ボックスおよび [抑制されたアラーム数] チェック ボックスをオンにします。
11. [OK] をクリックします。  
初期アラームおよび抑制されたアラームが **OneClick** に表示されます。

## [イベント]タブの基本設定

[イベント] タブに基本設定を設定するために [基本設定] ダイアログ ボックスで [イベント] を選択します。カスタマイズには以下の基本設定が使用できます。

### デフォルト時間間隔

[イベント] タブに表示されるイベントの取得に使用するデフォルト時間間隔を指定します。OneClick は、最初にこの値を使用して、モデルのイベントを表示します。[イベントフィルタ] ダイアログ ボックスを使用して、この値を変更できます。

### 電子メール件名テンプレート

電子メールメッセージの [件名] 見出しに含めることができる、使用可能なテンプレートを指定します。

### 電子メール テンプレート

電子メールメッセージに含めることができる、使用可能なテンプレートを指定します。

## イベントテーブル

### 列

[イベント] テーブルに表示する情報の列を指定します。

### フォント

[イベント] テーブルで使用するフォント ファミリおよびタイプ サイズを指定します。

### ソート

[イベント] テーブルのデフォルトのソート方法を指定します。

## フィルタされるイベントタイプ

[イベント] テーブルから除外するイベントのタイプを指定します。

## サブコンポーネントのイベントを表示

選択されたモデルのサブコンポーネントのイベントを [イベント] タブに表示するかどうかを指定します。たとえば、ポートはサブコンポーネントです。OneClick は、この値を使用して、モデルのイベントを表示します。 [イベント フィルタ] ダイアログ ボックスで、この値を変更できます。

## 除外イベントタイプ

[イベント] テーブルの表示からイベント タイプを除外することができます。

## フィルタされるイベントタイプを[除外イベントタイプ]リストに追加する方法

次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] 列の [イベントタブ] フォルダを展開し、 [フィルタされたイベントタイプ] をクリックします。

3. [除外イベントタイプ] リストの下の [参照] ボタンをクリックします。  
[イベントタイプの選択] ダイアログ ボックスが開き、使用可能なすべてのイベントタイプが表示されます。  
**注:** 除外するイベントタイプのイベントコードが既にわかっている場合は、[除外イベントタイプ] リストの下の [フィルタ] ボックスに入力して、[追加] ボタンをクリックします。
4. [イベントタイプの選択] ダイアログ ボックスから目的のイベントを選択し、[OK] をクリックします。  
[イベントタイプの選択] ダイアログ ボックスが閉じます。 イベントコードが、[除外イベントタイプ] リストの下のテキストボックスに表示されます。
5. [追加] をクリックします。  
イベントタイプが [除外イベントタイプ] リストに追加されます。
6. [基本設定] ダイアログ ボックスで [適用] ボタンをクリックします。  
選択したイベントタイプが除外され、[イベント] テーブルに表示されなくなります。

### フィルタされたイベントタイプを[除外イベントタイプ]リストから削除する方法

次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] 列の [イベントタブ] フォルダを展開し、[フィルタされたイベントタイプ] をクリックします。
3. [除外イベントタイプ] リストから削除するイベントタイプを選択します。
4. [削除] をクリックします。
5. [イベント] テーブルに含める他のイベントタイプに対して同じ手順を繰り返します。  
選択したイベントタイプが、[イベント] テーブルに再び表示されます。

## 電子メール テンプレート

OneClick には、アラームまたはイベントを電子メール送信するために使用できる、電子メール テンプレートが含まれます。これらの電子メール テンプレートは、関連するアラームまたはイベントからの特定の値を自動的に電子メール メッセージに含めます。[基本設定] ダイアログ ボックスまたは電子メール メッセージのダイアログ ボックス自体のいずれかからの既存の電子メール テンプレートを変更できます。

以下の電子メール テンプレート タイプが OneClick で利用可能です。

### 件名テンプレート

このテンプレートを使用する電子メール メッセージの [件名] 行に含めるフィールドを指定します。

### メッセージ テンプレート

このテンプレートを使用する電子メール メッセージの本文に含めるフィールドを指定します。

## 電子メール テンプレートの作成

既存の電子メール テンプレートを編集することにより、新しい電子メール テンプレートを作成できます。

注: 以下の手順では、アラーム用の電子メール テンプレートを作成する方法について説明します。同じ手順が、イベントに対する電子メール テンプレートのセットアップにも適用されます。詳細については、「[\[イベント\] タブの基本設定 \(P. 34\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] 列で [アラーム タブ] フォルダを展開します。以下のいずれかの手順を実行します。
  - [電子メール テンプレート] をクリックします
  - [電子メール 件名 テンプレート] をクリックします
3. [テンプレート] ドロップダウン リストからテンプレートを選択します。

4. [編集]ボタンをクリックして、選択したテンプレートを変更します。  
[テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. この新しいテンプレートの名前を [名前を付けて保存] フィールドに入力します。
6. 新しいメッセージテンプレートに表示する情報を選択します。  
それぞれのオプションは、アラーム内の列に対応します。
7. (オプション) [上に移動] または [下に移動] をクリックして、メッセージに情報が表示される順序を変更します。
8. テンプレートの作成が完了したら、[OK] をクリックします。  
新しいテンプレートが [テンプレート] ドロップダウンリストに表示されます。

## 電子メール テンプレートの変更

既存の電子メール テンプレートを変更することができます。

**注:** 以下の手順では、アラーム用の電子メール テンプレートを変更する方法について説明します。ただし、同じ手順が、イベントに対する電子メールテンプレートのセットアップにも適用されます。

**次の手順に従ってください:**

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] 列の [アラーム タブ] フォルダを展開し、以下のいずれかの手順を実行します。
  - [電子メール テンプレート] をクリックします。
  - [電子メール 件名 テンプレート] をクリックします
3. [テンプレート] ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。
4. [編集]ボタンをクリックして、選択したテンプレートを変更します。  
[テンプレートの編集] ダイアログ ボックスが表示されます。
5. メッセージテンプレートに表示する情報を選択します。

6. (オプション) [上に移動] または [下に移動] をクリックして、メッセージに情報が表示される順序を変更します。
7. テンプレートの変更が完了したら、[OK] をクリックします。  
変更したテンプレートが [テンプレート] ドロップダウンリストに表示されます。

## 一般基本設定

このセクションでは、[基本設定] ダイアログで使用可能な一般基本設定について説明します。アクセス権によっては、必ずしも以下の設定のすべてにアクセスできないことがあります。

### SNMP コミュニティ文字列リスト

保存された SNMP コミュニティ文字列リストを編集できます。この設定を使用して SNMP コミュニティ文字列をリストに追加し、不正確に入力された、保存済みの SNMP コミュニティ文字列を削除します。

**注:** OneClick 管理者はこの基本設定をロックできます。

### デフォルトフィールドフォント

情報画面のすべてのフィールド表示に使用されるデフォルトのフォントを指定します。

### デフォルトテーブルフォント

すべての OneClick テーブルで使用されるデフォルトのフォントを指定します。この設定は、[テーブル基本設定] ダイアログボックスを使用して、特定のテーブルに関して上書きすることができます。

### 電子メール アドレス リスト

[電子メール] ダイアログボックスの [宛先/CC] フィールドから利用できる電子メールアドレスを指定します。必要に応じて、アドレスの追加および削除を行うことができます。また、OneClick 内の [電子メール] ダイアログボックスに手動で入力する電子メールアドレスはすべて、このリストに自動的に保存されます。また、以下の形式を使用して、名前と電子メールアドレスを追加できます： <RecipientA Name>:<RecipientA Email Address>。

### ロケール

日付、時刻、番号のフォーマットに使用される地域ロケールを指定します。この設定は、オペレーティングシステムの設定より優先して使用されます。ログオンしているシステムと関係なく、同じロケール設定を保持できます。

注: この設定を適用するために OneClick クライアントを再起動します。

### ルックアンドフィール

OneClick クライアントのルック アンド フィールを指定します。デフォルト設定は、Windows など、クライアントを実行しているシステムのネイティブなルック アンド フィールです。システム デフォルトをオーバーライドすることを選択した場合、OneClick は、ユーザがログオンしているシステムに関係なく、同じルック アンド フィールを使用しようとします。指定されたルック アンド フィールをシステムがサポートしていない場合、OneClick はシステム デフォルトを使用します。

注: この設定を適用するために OneClick クライアントを再起動します。

### 新しいメッセージ用サウンド

OneClick 管理者から新しいメッセージを受信したときにサウンドで通知するかどうかを指定します。

### スクロールバーの増分

スクロールバーの矢印をクリックしたときに各スクロールバーを調整する量を指定します。

### 時刻形式

OneClick の時刻の表示形式を 12 時間または 24 時間で指定します。

### タイムゾーン

協定世界時 (UTC) を使用して OneClick で日付および時刻を表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、OneClick はローカルシステムのタイムゾーンを使用します。

### ツールチップ表示

ツールチップが表示されるまでに、ボタン、フィールド、または OneClick インターフェースの他のコンポーネント上にカーソルを置く時間を秒単位で指定します。

## [エクスプローラ]タブの基本設定

以下の [エクスプローラ] タブの基本設定オプションは、[基本設定] ダイアログボックスの [エクスプローラ タブ] セクションで使用可能です。

### 展開の制限

そのエレメント数が指定した制限を越える [エクスプローラ] ノードを展開した場合に、警告を表示します。

### エクスプローラテーブル

[エクスプローラ] タブの以下の基本設定を指定します。

#### 列

[エクスプローラ] に表示する [アラーム] カテゴリ列を指定します。

注: 詳細については、「[初期アラームおよび抑制されたアラームの表示 \(P. 33\)](#)」を参照してください。

#### フォント

[エクスプローラ] でテキストの表示に使用するフォントおよびタイプサイズを指定します。

#### ソート

[エクスプローラ] で使用するデフォルトのソート方法を指定します。

### 初期ビュー

アプリケーションを起動するたびに OneClick コンソールに表示される [エクスプローラ] タブの表示方法を指定します。

## エクスプローラビューの展開と折りたたみ

1 クリックで [エクスプローラ] タブ内の階層を折りたたむことができます。

次の手順に従ってください:

1. [エクスプローラ] タブをクリックします。
2. 折りたたむノードを選択し、右クリックし、[すべて折りたたむ] を選択します。

選択したノードの下にあるものはすべて、選択したノードのレベルに折りたたまれます。

3. (オプション) 展開するノードを選択し、右クリックし、[すべて展開] を選択します。

選択したノードの下にあるものはすべて完全に展開されます。

## [ロケータ]タブの基本設定

このセクションでは、[基本設定] ダイアログボックスで使用可能な [ロケータ] タブの基本設定について説明します。アクセス権によっては、必ずしも以下の設定のすべてにアクセスできないことがあります。

### ランドスケープのプロンプト

[ロケータ] タブから検索を実行するとき、検索するランドスケープについてユーザにプロンプトを表示するかどうかを指定します。

デフォルト: はい

### 結果テーブル

#### 列

テーブルに表示する情報の列を指定します。

#### フォント

テーブルで使用するフォントファミリーおよびタイプサイズを指定します。

#### ソート

テーブルのデフォルトのソート方法を指定します。

## [トポロジ]タブの基本設定

このセクションでは、[基本設定] ダイアログ ボックスで使用可能な [トポロジ] タブの基本設定について説明します。アクセス権によっては、必ずしも以下の設定のすべてにアクセスできないことがあります。

### 注釈フォント

トポロジの注釈テキストのデフォルトのフォント設定を指定します。変更できるのは、フォント、スタイル、サイズ、前景色、および背景色です。

### グリッドプロパティ

編集モードにおけるトポロジビューに影響します。管理者のみが OneClick トポロジを編集モードにすることができます。

### 初期ズーム

[トポロジ] タブのデフォルトビューに影響します。以下のオプションから選択します。

- システム デフォルトのズーム率。OneClick 管理者が値を設定します。
- カスタム ズーム率。
- 最小設定以上のズーム レベルで、トポロジを表示可能なウィンドウに合わせます。

### タイプ別モデリング

[タイプ別モデリング] ダイアログ ボックスから利用可能なモデルタイプを指定します。手動でモデルをモデルタイプ別に作成するときに [トポロジ] タブでモデルタイプを使用できます。

**注:** 詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

### オフページ参照モデルの表示

ページ外の参照モデルが [トポロジ] タブに表示されるかどうかを指定します。

### パイプ ラベルの表示

[トポロジ] タブにパイプ（接続）ラベルを表示するかどうかを指定します。

デフォルト：いいえ

### VLAN 重複

同じデバイスが [グローバル コレクション] に 2 回以上表示されても、VLAN 重複した ID を表示するかどうかを指定します。

注: トポロジの基本設定を変更し、[変更を永続的に適用] を選択した場合、変更内容は OneClick を使用するたびに有効になります。

## テーブル基本設定

列見出しの右クリックにより、列が OneClick に表示される方法を変更できます。 [テーブル基本設定] ダイアログ ボックスで、表示する列を選択することができます。使用可能な選択肢は、使用している OneClick アプリケーションによって異なります。

列見出しをクリックして左右にドラッグすることによって、列のサイズを変更することができます。また、最長のテキスト文字列に合わせて列のサイズを変更することもできます。列の右の列ヘッダ境界をダブルクリックします。列見出しをクリックして、特定の列の属性値によってリストを並べ替えます。

または、テーブルをサポートしている [基本設定] ダイアログ ボックスの各カテゴリで、テーブル基本設定を設定することもできます。

## 行詳細の表示

[行詳細] ダイアログ ボックスから **OneClick** コンソール リスト内の行に関してより多くの情報を表示できます。 [行詳細] ダイアログ ボックスは、利用可能なフィールドごとに値を表示します。 リストに現在表示されていないフィールドに対する値も含まれています。

次の手順に従ってください:

1. 目的の行アイテムを右クリックし、 [行詳細] を選択します。  
 [行詳細] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. (オプション) 同じリスト内の別の行をクリックします。  
 [行詳細] ダイアログ ボックスは、新しく選択された行に対する値を表示します。
3. このリスト内のアイテムの行詳細の確認が終了したとき、 [閉じる] をクリックします。

## OneClick リストのフィルタ

[フィルタ] テキスト ボックスを使用して、 **OneClick** リストに表示されるアイテムをフィルタできます。 [フィルタ] テキスト ボックスは多くの **OneClick** 画面およびタブに表示されます。 フィルタリング機能では、列とリストに表示されるデータをフィルタするためのテキストを入力できます。 [フィルタ] テキスト ボックスに文字を打ち込むと、リストには入力したテキストが含まれるアイテムのみが表示されるか、非表示にされます。 [フィルタ] ドロップダウンリストから [表示] または [非表示] を選択することにより、アイテムを含めたり、除外できます。




## ランドスケープの選択

**CA Spectrum** ランドスケープは、特定の **CA Spectrum** サーバのネットワークビューです。 分散 **CA Spectrum** 環境では、複数の **CA Spectrum** サーバを使用してネットワークを管理しています。 各サーバにはそれぞれのネットワーク ビューがあります。 **CA Spectrum** 環境の設定方法によっては、複数の **CA Spectrum** サーバにアクセスできます。

そのため、特定のアクションを実行すると、[検索するランドスケープの選択] ダイアログボックスが表示されることがあります。このダイアログボックスによって、アクションを実行するランドスケープを選択するよう要求されます。左側には含まれるランドスケープがリストされ、右側には除外されるランドスケープがリストされます。ランドスケープが1つしかない場合は、そのランドスケープのみが、含まれるランドスケープのリストに表示されます。

## OneClick の画面

デフォルトでは、OneClick インターフェースには全部で3つの画面が表示されますが、必要に応じて画面の表示を変更することができます。

- [表示] メニュー：各画面は [表示] メニューにリストされます。画面の横にチェックマークがある場合は表示されています。画面の横にチェックマークがない場合は、現在 OneClick コンソールインターフェースで表示できません。
- ドッキングとクローン：各 OneClick 画面に対して、以下のボタンを使用してドッキング、ドッキング解除、またはクローンを実行できます。
  -  **ドッキング解除**：OneClick コンソール画面をドッキング解除します。
  -  **ドッキング**：以前ドッキング解除した OneClick コンソール画面をドッキングします。
  -  **クローン**：OneClick コンソール画面をクローンします。

## 画面のドッキングおよびドッキング解除

画面のドッキングを解除すると、その画面が独自ウィンドウに表示されると同時に、OneClick コンソールのメインビューから削除されます。画面をドッキング解除すると、スクリーンのスペースをより有効に使用することができます。

[ドッキング] をクリックするか、[表示] メニューを使用することによって、ドッキング解除された画面をドッキングすることができます。閉じた画面を表示するには、[表示] メニューをクリックして、表示する画面を選択します。

## 画面のクローン

コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面で [クローン] をクリックすると、画面の別のインスタンスを含む別のウィンドウが表示されます。コンポーネント詳細画面が表示されている状態で、コンテンツ画面で [クローン] をクリックすると、両方の画面のインスタンスを含む新規ウィンドウが表示されます。

クローンを使用すると、ネットワークの複数エリアを表示することができます。他のネットワーク アセットを表示するために元のソースから離れても、クローンを作成されたウィンドウの情報の表示には影響ありません。

詳細情報:

[複数のアラーム フィルタ \(P. 56\)](#)

## コンポーネント詳細画面からのテキストのコピー

コンポーネント詳細画面からテキストをコピーすることができます。

次の手順に従ってください:

1. 以下のいずれかの手順を実行して、コピーするコンポーネント詳細画面のテキストを選択します。
  - コピーするテキスト範囲の開始位置にカーソルを置き、マウスの左ボタンを押しながら、テキスト範囲の終わりまでカーソルをドラッグします。
  - 単語を選択する場合は単語をダブルクリックし、1行全体を選択するにはトリプルクリックします。テキスト範囲がハイライト表示されます。
2. ハイライト表示されたテキスト範囲に対して、以下のいずれかの手順を実行します。
  - 右クリックし、[コピー] をクリックします。
  - CTRL+C キーを押します。
3. テキストを OneClick または別の文書プログラムや電子メールプログラムの書き込み可能フィールドに貼り付けます。

## OneClick への URL の挿入

URL をコンポーネント詳細画面の書き込み可能フィールドに挿入することができます。

次の手順に従ってください:

1. コンポーネント詳細画面で、URL を追加するフィールドを見つけます。  
たとえば、[一般情報] サブメニューから [メモ] フィールドを選択して、[設定] をクリックします。
2. メモに含めるテキストと URL を入力します。例：  
**問題は <http://internal.info.xyz.com> に記述されています。**
3. [保存] をクリックします。

URL にスペースまたはカンマを含めると、一部のブラウザでは Web リソースの検索に問題が生じることがあります。コンポーネント詳細画面に含める URL にスペースまたはカンマを含める必要がある場合は、16 進数表記および適切なエンコーディングを使用してください。

- カンマの場合は、**%2C** を使用します。
- スペースの場合は、**%20** を使用します。

**注:** OneClick 管理者は、URL フォーマットに関してより多くの情報を提供できます。

# 第 4 章: OneClick でのネットワークの監視

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[グローバル コレクション](#) (P. 49)

[ネットワーク検索](#) (P. 50)

[アラームの管理](#) (P. 53)

[イベントの管理](#) (P. 68)

[インターフェース情報](#) (P. 75)

[モデル関係の強調表示](#) (P. 82)

[モデリングされたデバイスのハイライト表示](#) (P. 83)

[接続ステータス インジケータ](#) (P. 85)

[OneClick のスケジュール](#) (P. 86)

## グローバル コレクション

グローバル コレクションは、複数のコンテナまたはランドスケープにまたがるネットワーク デバイスについてのオペレータ ビューの整理をサポートします。OneClick 管理者がグローバル コレクションを作成し、オペレータが [エクスプローラ] タブでグローバル コレクションを選択して、コンテンツ画面の [アラーム] タブ、[イベント] タブ、および [リスト] タブを表示して、グローバル コレクションを監視します。

グローバル コレクションは、以下の理由で空の場合があります。

- メトリックが設定されていない。
- ユーザ アカウントに既存のコレクションに対するアクセス権がない。
- 動的なコレクションに現在モデルが含まれていない。

OneClick 管理者は、グローバル コレクションを保守し、グローバル コレクションへのアクセス権を付与または拒否します。

注: 詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

## ネットワーク検索

CA Spectrum を使用したネットワークの検索は、基本的なネットワーク管理タスクです。オペレータは、[ロケータ] タブを使用して、事前定義済みの検索を実行し、ネットワーク上の特定のモデルまたはモデルグループを識別することができます。検索を実行する際は、複数の検索基準カテゴリから選択することができます。たとえば、ネットワークアセットを検索するだけでなく、スケジュールなどの構成アイテムも検索できます。どのスケジュールが有効か、また、スケジュールが適用されるモデルを確認できます。

[ロケータ] タブから利用可能ないくつかの事前定義済み検索には、以下のオブジェクトが含まれます。

- すべてのデバイス
- デバイス - IP アドレス
- すべてのアプリケーション モデル
- すべての SNMPv3 デバイス
- すべてのスケジュール

分散 SpectroSERVER (DSS) 環境で作業している場合、一部の検索では、ランドスケープ選択ダイアログ ボックスを使用して、検索に含めるランドスケープを選択する必要があります。

注: 詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。


詳細情報:

[ランドスケープの選択 \(P. 45\)](#)

## ネットワークの検索

[ロケータ] タブから、ネットワークに対して事前定義された検索を実行できます。

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブをクリックします。
2. [ロケータ] タブで実行する検索を見つけて、以下のいずれかの操作を実行します。
  - 検索をダブルクリックします。
  - 検索を選択して、 (選択された検索の起動) をクリックします。

詳細情報が必要でない場合、検索が実行され、結果は [結果] タブに表示されます。さらに情報が必要な場合、[検索] ダイアログボックスが表示されます。

3. 以下のいずれかの手順を実行します。
  - 検索する値を入力します。
  - ドロップダウンリストから、検索する値を選択します。検索する値が、[検索] ダイアログボックスにリスト表示されます。
4. (オプション) 大文字と小文字を区別しない検索に対しては、[大文字と小文字を区別しない] チェックボックスをオンにします。
5. (オプション) 単一の属性に対する複数の値を検索するために [リスト] ボタンをクリックします。
6. [OK] をクリックします。

検索が実行されます。検索結果がコンテンツ画面の [結果] タブに表示されます。

詳細情報:

[\[ロケータ\] タブ](#) (P. 15)

## 単一属性に対する複数值の検索

検索を実行した後、[検索] ダイアログ ボックスの [リスト] ボタンを使用して、検索する値のリストを指定できます。

**注:** [リスト] ボタンは、正規表現検索、または [指定の語句を含まない]、[指定の語句で始まらない]、[指定の語句で終わらない]、[次の値と等しくない] などの「ネガティブ」検索では使用できません。

**次の手順に従ってください:**

1. 値のリストを入力する目的の検索を実行します。

[検索] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [リスト] をクリックします。

[値のリスト] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 以下のいずれかの操作を実行します。

- [値のリスト] ダイアログ ボックスで検索する値を入力します。
- [インポート] をクリックし、検索する値が含まれるファイルを選択し、[開く] をクリックします。

**注:** 入力する値は論理的に「OR」で結ばれます。たとえば、「router 1, router 2, router 3」と入力すると、検索で「router 1 OR router 2 OR router 3」と返されます。

検索している値は [値のリスト] ダイアログ ボックスに表示されます。

4. (オプション) [大文字と小文字を区別しない] チェック ボックスをオンにします。

その検索では大文字と小文字が区別されません。

5. リスト内の各値を区切るには、使用する区切り文字に応じて、[区切り文字] ドロップダウン リストから以下のいずれかの文字を選択します。

- <new line>
- <space>
- ,
- ;

6. [OK] をクリックします。  
[値のリスト] ダイアログ ボックスが閉じます。
7. [OK] をクリックします。  
検索が実行され、結果がコンテンツ画面の [結果] タブに表示されま  
す。

## アラームの管理

OneClick は、[アラーム] タブに表示されるアラームを識別し、管理するツールを提供します。一部の設定で、管理者は OneClick で生成されるアラームをカスタマイズできます。他の設定を使用して、オペレータは OneClick で表示されるアラームを管理できます。

### [アラーム フィルタ]ダイアログ ボックス

[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスを使用して、OneClick の [アラーム] タブにアラームを表示する方法を決定するためのアラーム フィルタを作成することができます。このダイアログ ボックスには、以下のタブが含まれます。

#### ランドスケープ

アラームを表示するランドスケープを定義します。

#### 重大度

このフィルタに適用されるアラーム重大度を定義します。

#### 状態

表示する状態を指定します。オプションは以下のとおりです。

##### 確認の状態

確認済み、未確認、両方。

##### クリア可能状態

クリア可、クリア不可、両方。

### プライマリ/セカンダリの状態

コンテナのプライマリ/デバイスのすべてのアラームを表示、プライマリ アラームのみを表示、すべてのアラームを表示。

注: その状態の両方のオプションを確認するために、[確認の状態] または [クリア可能状態] の下の [両方] を選択します。

### 兆候

兆候の原因と判断されるアラームを表示するかどうかを指定します。

### ネットワークアドレス

アラームを表示または非表示にするネットワーク アドレス範囲を指定します。

### 割り当て

アラームを表示できる割り当て済みの所有者を指定します。

### モデル クラス

アラームを表示しないモデル クラスを指定します。

### モデル タイプ

アラームを表示しないモデル タイプを指定します。

### アラーム タイプ

アラームを表示しないアラーム タイプを指定します。

### 属性

**属性:** フィルタするデバイスの属性を選択します。

**比較タイプ:** 属性 ID の値と [属性値] フィールドの値の比較方法を指定します。属性のデータ タイプに適切な比較タイプのみが表示されます。

**大文字と小文字を区別しない:** 比較で大文字と小文字を区別しない場合は、[大文字と小文字を比較しない] チェック ボックスをオンにします。この選択は、選択した属性のデータ タイプに該当する場合にのみ有効です。

**属性値:** 比較で使用する目的の属性値を入力または選択します。

このタブの [詳細を表示] ボタンを使用して、複雑な属性フィルタリングを実行することができます。

以下のボタンは [アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスのすべてのタブから使用できます。

### タブのクリア

すべてのタブのすべてのフィールドをクリアし、タブに設定されたすべてのフィルタをクリアします。

### すべてクリア

すべてのタブおよび [詳細フィルタ] セクションのすべてのフィールドをクリアします。 [すべてクリア] をクリックしてから [OK] をクリックすると、フィルタが設定されていないため、すべてのアラームが表示されます。

### 詳細を表示

詳細フィルタ画面が表示されます。

### 使用可能フィルタ

保存済みのフィルタが表示され、適用、編集、または削除することができます。

### 追加

[フィルタ名の入力] ダイアログ ボックスを使用して、アラーム フィルタを作成します。新しいアラーム フィルタは、[使用可能フィルタ] ドロップダウン リストに表示されます。


### 削除

選択したフィルタを [使用可能フィルタ] リストから削除します。

## アラームのフィルタ

[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスで作成されたアラーム フィルタを使用して、OneClick ビューでのアラームの表示方法を決定できます。

[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスを開くには、以下のいずれかの操作を実行します。

- [基本設定] ダイアログ ボックスで、[アラーム タブ] フォルダから [アラーム フィルタ] を選択し、[アラーム フィルタの設定] をクリックします。
- [アラーム] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。

アラーム フィルタを作成して、OneClick が [アラーム] タブに表示するアラームをカスタマイズできます。「詳細アラーム フィルタ」の説明に従って、詳細アラーム フィルタを作成することもできます。

詳細:

[詳細アラーム フィルタリングの使用](#) (P. 57)

### 複数のアラーム フィルタ

複数のアラーム フィルタを作成して、特定のデバイス、コンテナ、または他のモデルに対する特定のアラーム状態を除外することができます。これらのフィルタを使用して、複数のアラーム ビューに異なるアラーム状態を同時に表示することができます。コンポーネント詳細画面またはコンテンツ画面をクローンし、各画面に [アラーム] タブを表示して、複数のアラーム ビューを作成します。作成した個別のアラーム フィルタを選択して、各アラーム ビューの特定の状態をトラブルシューティングまたは監視します。


詳細:

[画面のクローン](#) (P. 47)

### アラーム フィルタの作成および保存

アラーム フィルタを作成および保存して、後で取得して使用することができます。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. [アラーム] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [追加] をクリックします。  
[フィルタ名の入力] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 作成するフィルタ名を入力して、[OK] をクリックします。

5. フィルタリング条件の設定に使用するタブをクリックします。これらのタブについては、「詳細アラーム フィルタ」で説明しています。
6. [適用] をクリックします。  
フィルタ設定が保存され、[アラーム] タブのビューにフィルタが適用されます。
7. [OK] をクリックします。  
アラーム フィルタが作成され、保存されて、[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスが閉じます。

詳細:

[詳細アラーム フィルタリングの使用 \(P. 57\)](#)

## 詳細アラーム フィルタリングの使用

[詳細フィルタ] では、適用するフィルタ タイプを複数選択できるため、簡単なフィルタに比べて、より柔軟性があります。一方、簡単なフィルタリングでは、すべてのフィルタ選択を単にグループ化し、直線的に適用します（[ランドスケープ] や [セカンダリ アラーム] や [モデルタイプ] によるフィルタなど）。簡単なフィルタリングではすべての条件を満たす必要がありますが、詳細なフィルタリングでは、定義した条件のいずれかを満たすことができます。

詳細アラーム フィルタリングには 2 つの要件があります。

- 少なくとも 2 セットのフィルタ条件。
- アラームは「どちらか/または」でフィルタされます。

たとえば、詳細フィルタリングを使用すると、赤い（重大）HubCat5000 モデルタイプまたは黄色い（マイナー）Ping 可能モデルタイプを表示することができます。この場合、[アラーム] リストには、赤い（重大）の Ping 可能モデルタイプも、黄色い（マイナー）HubCat5000 モデルタイプも表示されません。簡単なアラーム フィルタリングでは、そのような明確な区別を行いません。代わりに、すべてのマイナー/重大の Ping 可能、およびすべてのマイナー/重大の HubCat5000 が簡単なフィルタリングで表示されます。

この手順では、例の続きで、重大な HubCat5000 モデルタイプまたはマイナーな Ping 可能モデルタイプの詳細なフィルタリングについて説明します。

次の手順に従ってください:

1. [表示] メニューから [基本設定] を選択します。  
[基本設定] ダイアログボックスが表示されます。
2. [名前] 列の [アラームタブ] フォルダを展開し、[アラームフィルタ] をクリックし、[アラームフィルタの設定] をクリックします。  
[アラームフィルタ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [モデルタイプ] タブをクリックし、以下を実行して、HubCat5000 モデル以外のすべてのモデルタイプを非表示にします。
  - a. 二重右矢印ボタンをクリックして、すべてのモデルタイプを [表示] リストから [非表示] リストに移動します。
  - b. ダイアログボックスの右側にある [フィルタ] フィールドに「HubCat5000」と入力します。  
注: 下にスクロールして [フィルタ] フィールドを表示します。
  - c. HubCat5000 モデルタイプが選択された状態で、一重左矢印ボタンをクリックします。

HubCat5000 が [表示] リストに移動されます。

4. [重要度] タブをクリックして、[メジャー] アラームと [マイナー] アラームを [非表示] リストに移動します。
5. [詳細を表示] をクリックします。  
[アラームフィルタ] ダイアログボックスが展開され、[詳細フィルタ] セクションが表示されます。
6. [詳細フィルタ] セクションで [追加] ボタンをクリックします。

選択内容が詳細フィルタ画面に配置され、画面には以下のフィルタが表示されます。

重要度 (抑制、メジャー、マイナー、初期、保守を非表示) AND モデルタイプ (HubCat5000 を表示)

7. [タブのクリア] ボタンをクリックします。  
設定したフィルタがクリアされます。  
**注:** 作成したフィルタは詳細フィルタ画面に引き続き表示されていますが、ここで追加する必要があります。
8. [モデルタイプ] タブをクリックして、[Ping 可能] 以外のすべてのモデルタイプを [非表示] リストに移動します。
9. [重要度] タブをクリックして、[メジャー] アラーム、[重大] アラーム、[初期] アラーム、[抑制] アラームを [非表示] リストに移動します。
10. 詳細フィルタ画面の [追加] ボタンをクリックして、選択内容を詳細フィルタ画面に移動します。  
画面には以下のフィルタが表示されます。  
重要度 (抑制、メジャー、マイナー、初期、保守を非表示) AND モデル タイプ (HubCat5000 を表示)  
OR 重要度 (重大、抑制、メジャー、初期を非表示) AND モデル タイプ (Ping 可能を表示)
11. [使用可能フィルタ] リストの横の [追加] ボタンをクリックします。  
設定が保存され、[フィルタ名の入力] ダイアログ ボックスが表示されます。
12. 保存するフィルタの名前を入力します。
13. [OK] をクリックします。  
[フィルタ名の入力] ダイアログ ボックスが閉じ、保存したフィルタが [使用可能フィルタ] ドロップダウン リストに表示されます。
14. [OK] をクリックします。  
[アラーム フィルタ] ダイアログ ボックスが閉じます。
15. [OK] をクリックします。  
[基本設定] ダイアログ ボックスが閉じます。

### システムによってクリアされたアラーム

システムによってクリアされたアラームとは、ユーザの確認なしにシステムによって自動的にクリアされるアラームです。結果として、デバイスは正常（緑）状態に戻ります。ネットワーク監視の一部として、これらのアラームを追跡できます。

システムによってクリアされたアラームの追跡をモデル単位で有効にします。追跡を有効にすると、[デバイス] > [システムによってクリアされたアラームを持つ全デバイス] 検索を実行することによって、[ロケータ] タブからこれらのシステムによってクリアされたアラームを検索できます。その後、必要に応じてそれらを確認できます。

**注:** この検索は、システムによってクリアされたアラームがあったデバイスの検索のみを行います。古くなったアラームでクリアされたものは、[クリア済みアラーム履歴] タブで対応する [クリア実行者] 列に「System.Alarm\_AgeOut」値が表示されます。対応するクリアイベントにも、[イベント] タブの [クリア実行者] 列にこの値が表示されます。

#### 例: システムによってクリアされたアラーム

以下の例では、それぞれ追跡が有効な、2つのデバイスについて説明します。

デバイス A には重大なアラームが 1 つあります。システムは重大なアラームをクリアします。デバイスは通常の状態に戻り、[デバイス] > [システムによってクリアされたアラームを持つ全デバイス] 検索によって検出されます。

デバイス B には重大なアラームが 1 つ、メジャーアラームが 1 つあります。システムは重大なアラームをクリアしますが、メジャーアラームはクリアしません。状態が正常ではないので、検索でデバイスが検出されません。

## システムによってクリアされたアラームの追跡

ネットワーク監視の一部として、システムによってクリアされたアラームを追跡できます。

### システムによってクリアされたアラームの追跡を有効にする方法

次の手順に従ってください:

1. システムによってクリアされたアラームを追跡するモデルを選択します。
2. 右クリックし、[システムによってクリアされたアラームを追跡] を選択します。

このモデル上で発生するシステムによってクリアされたアラームはすべて追跡されます。

### システムによってクリアされたアラームを見つける方法

次の手順に従ってください:

1. ナビゲーション画面の [ロケータ] タブをクリックします。
2. [デバイス] > [システムによってクリアされたアラームを持つ全デバイス] 検索をダブルクリックします。

追加の入力が必要ではない場合、検索はすぐに実行されます。検索結果がコンテンツ画面に表示されます。

システムによってクリアされたアラームがすべて表示されます。

### システムによってクリアされたアラームを確認する方法

次の手順に従ってください:

1. システムによってクリアされたアラームを持つモデルを選択します。
2. 右クリックし、[システムによってクリアされたアラームを確認] を選択します。

アラームが確認されます。

モデルは、[デバイス] > [システムによってクリアされたアラームを持つ全デバイス] 検索に表示されなくなります。

### システムによってクリアされたアラームの追跡を無効にする方法

次の手順に従ってください:

1. システムによってクリアされたアラームの追跡を無効にするモデルを選択します。
2. 右クリックし、[システムによってクリアされたアラームを無視] を選択します。

このモデル上で発生するシステムによってクリアされたアラームは追跡されなくなります。

### アラーム属性の更新

デフォルトで、CA Spectrum では、[アラーム] タブから以下の2つのアラーム属性を更新できます。


- アラーム ステータス
- トラブルチケット ID

アラームの属性の更新によって、アラームに関するより多くの情報を他のユーザに提供できます。たとえば、アラームのステータスを更新して、アラームと関係する状況がどのように処理されているか、他のオペレータに知らせることができます。

**注:** また、必要に応じて、独自のカスタムアラーム属性を定義することもできます。詳細については、「OneClick カスタマイズガイド」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. 更新するアラームを選択します。

3.  をクリックします (アラーム属性の更新)。

[アラーム属性の更新] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [属性] ドロップダウンリストから、更新する属性を選択します。

5. [属性値] フィールドで、属性の新しい値を入力します。
6. [OK] をクリックします。  
[アラーム属性の更新] ダイアログ ボックスが閉じます。アラーム属性が更新されます。

## アラームのスヌーズ設定

24 時間より短い、任意の期間のアラームをスヌーズ設定できます。たとえば、いくつかのアラームが他のものほど重大でない場合、スヌーズ機能が役立ちます。より深刻なアラームに焦点を当てることができるように、アラームをスヌーズ設定して、より重大度の低い問題へのアクションを先送りします。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. スヌーズ設定するアラームを選択します。
3. 選択されたアラームを右クリックし、[スヌーズ] を選択し、以下のいずれかのオプションを選択します。
  - 選択したアラームをスヌーズ設定
  - 対応するソースからアラームをスヌーズ設定[アラームのスヌーズ設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 以下の手順を実行します。
  - a. フィールドに入力して、どれくらいの時間、アラームをスヌーズしておくかを示します。
  - b. (オプション) [現在のスヌーズ時間をデフォルトとして保存] チェック ボックスをオンにします。
  - c. [OK] をクリックします。

選択したアラームは、[アラーム] タブに表示されなくなり、スヌーズ時間が期限切れになったときに再表示されます。

### アラームのスヌーズ解除

スヌーズ設定されたアラームを再び表示できるようになる前に、デフォルトスヌーズ時間が期限切れになるのを待つ必要はありません。アラームに注意を集中させる準備ができている場合はいつでも、これらのアラームをスヌーズ解除できます。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。

2. [アラーム] ツールバー内の  をクリックします (スヌーズ解除)。

以前にスヌーズ設定されたアラームはすべて、[アラーム] タブに再び表示できます。

### アラームのトラブルシュータ

トラブルシュータと呼ばれるユーザに、アラームの調査と問題解決の責任を割り当てることができます。トラブルシュータをアラームに割り当てるには、[アラーム] ツールバーを使用します。トラブルシュータをアラームに割り当てるとき、彼らは自動的にアラームに関する電子メールを受信します。送信される前に、電子メールを編集できます。

### トラブルシュータの作成

アラームを割り当てる前に、まずトラブルシュータを作成する必要があります。

次の手順に従ってください:

1. [ツール] - [ユーティリティ] - [トラブルシュータ] をクリックします。  
[トラブルシュータ] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [作成] をクリックします。  
[トラブルシュータの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [トラブルシュータの作成] ダイアログ ボックスで以下を実行します。
  - a. トラブルシュータと電子メールアドレスの名前を入力します。
  - b. トラブルシュータを割り当てるランドスケープを選択します。
  - c. [OK] をクリックします。
4. [閉じる] をクリックします。  
トラブルシュータが作成され、アラームに割り当てることができるようになりました。


### トラブルシュータの割り当ておよび割り当て解除

[アラーム] リストに表示されるアラームに対するトラブルシュータの割り当ておよび割り当て解除を行うには、[アラーム] ツールバーを使用できます。割り当てるトラブルシュータは、OneClick に既に存在している必要があります。

**注:** 管理者は、割り当てられたトラブルシュータに通知電子メールメッセージを送ることを有効にするために、OneClick サーバ上の電子メールサービスを設定する必要があります。詳細については、「[管理者ガイド](#)」を参照してください。


### トラブルシュータを割り当て、通知メールを送信する方法

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. トラブルシュータを割り当てるアラームを選択します。
3.  (トラブルシュータの割り当て) をクリックします。  
[トラブルシュータの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. リストからトラブルシュータを選択します。
5. (オプション) トラブルシュータに送信する前にメッセージを編集するには、[メールの編集] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。  
[トラブルシュータの選択] ダイアログ ボックスが閉じます。アラーム通知電子メール メッセージは、選択したトラブルシュータに送信されます。

### トラブルシュータの割り当てを解除する方法

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. トラブルシュータの割り当てを解除するアラームを選択します。
3.  (トラブルシュータの割り当て解除) をクリックします。
4. トラブルシュータをアラームから割り当て解除することを確認します。  
OneClick はトラブルシュータに、変更に関する情報が記載された電子メール メッセージを送信します。

## トラブルシュータの割り当ての表示

[アラーム] リストの [割り当て] 列を表示して、各アラームに割り当てられたトラブルシュータの名前を確認することができます。


次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。
2. [アラーム] リストの列見出しを右クリックします。  
[テーブル基本設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [列] タブで [割り当て] を選択し、[OK] をクリックします。  
[アラーム] リストに [割り当て] 列が表示され、アラームに割り当てられたトラブルシュータの名前が表示されるようになります。

## アラームの電子メール送信

必要に応じて、トラブルシュータおよび非トラブルシューに対して、アラーム詳細が含まれる電子メール メッセージを送信できます。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面の [アラーム] タブをクリックします。  
[アラーム] リストが表示されます。
2. 電子メールを送信するアラームを選択します。
3.  (電子メール) をクリックします。  
[選択されたアラームを電子メールで送信] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 以下のいずれかを実行します。
  - [宛先] フィールドまたは [CC] フィールドのいずれかに、セミコロンで区切られた 1 つ以上の新しい受信者の電子メールアドレスを入力します。  
これらの新しいアドレスは、[一般] 基本設定の [電子メールアドレス リスト] に保存されます。

- 以下の操作を実行することにより、既存の電子メールアドレスを使用します。
  - a. [宛先] または [CC] をクリックします。

[電子メールアドレスの選択] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. リストから 1 つ以上の電子メールアドレスを選択し、[宛先] または [CC] をクリックします。

電子メールアドレスは、[電子メールアドレスの選択] ダイアログ ボックスの [宛先] または [CC] フィールドに追加されます。
  - c. [OK] をクリックします。

[電子メールアドレスの選択] ダイアログ ボックスが閉じます。また、選択した電子メールアドレスが [選択したアラームを電子メールで送信] ダイアログ ボックスの [宛先] または [CC] フィールドのいずれかに表示されます。
- 5. [件名] フィールドで件名を入力するか、またはドロップダウン リストから件名テンプレートを選択します。
- 6. 使用するメッセージテンプレートを [テンプレート] ドロップダウン リストから選択するか、テンプレートを編集します。
- 7. [送信] をクリックします。

メッセージが送信されます。

## イベントの管理

[エクスプローラ] タブでコンテナおよびデバイスを選択してから、コンテナ画面またはコンポーネント詳細画面で [イベント] タブをクリックすることによって、コンテナおよびモデリングされたデバイスのイベントを表示することができます。 [イベント フィルタ] ダイアログ ボックスを使用して、 [イベント] タブをフィルタすることができます。


## イベントのメール送信

アラームの電子メール送信と同じ手順を使用して、イベントを電子メール送信できます。詳細については、「[アラームの電子メール送信 \(P. 67\)](#)」を参照してください。

## イベントフィルタリング

フィルタするテキストを [フィルタ] テキスト ボックスに入力することによって、 [イベント] タブに表示されるイベントをフィルタできます。イベント フィルタを作成して保存し、再利用することもできます。

### [イベント フィルタ] ダイアログ ボックス

[イベント フィルタ] ダイアログ ボックスを使用して、イベントをフィルタリングする追加条件を設定することができます。このダイアログボックスは、ツールバーの  (フィルタ) のクリック、 [イベント] リストのイベントの右クリック、およびメニューからの [フィルタ] の選択によって、 [イベント] タブからアクセスできます。

以下のように、 [イベント] リストの現在のビューをフィルタできます。

- 日付および時間範囲のイベントの表示
- 時間範囲のイベントの表示
- ポートおよびアプリケーションのイベントの表示
- [イベント] テーブルのイベントをタイプによって除外および含める
- 詳細なイベント フィルタ

[イベント フィルタ] ダイアログ ボックスでこれらの設定の多くを変更すると、変更は [イベント] タブの現在のインスタンスにのみ適用されます。 [日付/時刻] オプションおよび [サブコンポーネントのイベントを表示] オプションのデフォルト値は、モデルの [イベント] タブを選択するたびに適用されます。これらのデフォルト値は、 [基本設定] ダイアログ ボックス ( [表示] - [基本設定] を選択) を使用して設定することができます。これらの、および他のオプションのデフォルトの基本設定値は、 OneClick 管理者が [基本設定] ダイアログ ボックスを使用することによって、すべてのユーザに対してグローバルに設定できます。

### 日付および時間範囲のイベントの表示


[イベントフィルタ] ダイアログ ボックスの [一般] タブの [日付/時刻] セクションで、[特定の期間のイベントを表示] オプションをオンにすることによって、[イベント] タブに表示されるイベントを特定の範囲に制限することができます。範囲の開始日付および時刻を入力します。範囲の終了日付および時刻を選択しない場合、開始日付および時刻以降に開始するすべてのイベントが表示されます。範囲の終了日付および時刻を作成するには、[終了] チェック ボックスをオンにして、日付および時刻を入力します。

[特定の期間のイベントを表示] オプションをオンにすると、[イベント] タブの [イベント] リストのすぐ上に、現在表示されているイベントの期間が表示されます。

### 時間範囲のイベントの表示

特定の時間範囲内のイベントのみを表示することができます。

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベントフィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [次の期間のイベントを表示: 過去 <X> 時間] をオンにします。
4. [イベント] リストに表示する直近イベントの時間数を示す数字を選択ボックスに入力します。
5. [OK] をクリックします。

[イベント] リストに指定した過去の時間数のイベントのみが表示されるようになりました。

**注:** [次の期間のイベントを表示: 過去 <X> 時間] をオンにすると、[イベント] タブには現在すぐ上の [イベント] テーブルに表示されているイベントの時間範囲が表示されます。

## ポートおよびアプリケーションのイベントの表示

[サブコンポーネントのイベントを表示] オプションをオンにすることによって、ポートおよびアプリケーション モデルを含むデバイス モデルのサブコンポーネントのイベントを表示することができます。 デフォルトでは、このオプションはオフになっています。

## [イベント]テーブルのイベントをタイプによって除外および含める

[除外イベント タイプ] リストのイベントを追加および削除することができます。 [除外イベント タイプ] リストにリストされているイベントは、[イベント] テーブルに表示されません。

**注:** 以下の手順は、タスクを実行するコンテキストでのみ [イベント] タブの表示に影響を与えます。 イベント ビュー設定を保存して後で使用することはできません。


[イベント] テーブルから直接イベント タイプを除外することができます。

OneClick の表示からイベント タイプを除外するには、除外するイベントを [イベント] テーブルで右クリックし、メニューから [除外] を選択します。

[イベント] テーブルからイベントが削除されます。

## [イベントフィルタ]ダイアログ ボックスを使用して OneClick への表示からイベントタイプを除外する方法


次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベントフィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [イベントタイプ] タブをクリックします。

4. 以下のいずれかの操作を実行します。
  - イベント タイプの値をテキストフィールドに直接入力します。
  - [参照] ボタンをクリックし、表示されたリストから目的のイベント値を選択して、[OK] をクリックします。選択したイベント値がテキストフィールドに入力されます。
5. [追加] をクリックします。  
イベントが [除外イベントタイプ] リストに追加されます。

### [イベント]テーブルにイベントタイプを含める方法

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベントフィルタ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [イベントタイプ] タブを選択します。
4. [イベント] テーブルに表示するイベントタイプを [除外イベントタイプ] リストから選択します。
5. [削除] をクリックします。  
イベントタイプが [除外イベントタイプ] リストから削除され、生成時に [イベント] テーブルに表示されるようになります。

**注:** OneClick 管理者は、[基本設定] ダイアログボックスを使用して、[イベント] テーブルから除外するイベントタイプを指定することもできます。

詳細情報:


[\[イベント\] タブの基本設定 \(P. 34\)](#)

## 詳細なイベントフィルタの作成

[イベントフィルタ] ダイアログボックスの [詳細] タブを使用して、詳細なイベントフィルタを選択または作成することができます。作成した詳細フィルタは、保存して再利用できます。既存の詳細フィルタを使用するには、[使用可能フィルタ] ドロップダウンリストから選択します。

### 詳細なイベントフィルタを作成する方法


次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベントフィルタ] ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細設定] タブをクリックします。
4. ドロップダウンリストから [属性] を選択します。
5. ドロップダウンリストから [比較タイプ] を選択します。
6. テキストボックスに属性値を入力します。
7. [属性] として [イベントタイプ] または [モデルタイプ名] を選択し、属性値が不明の場合は、[参照] ボタンをクリックします。  
[イベントタイプの選択] ダイアログボックスまたは [モデルタイプの選択] ダイアログボックスが表示されます。
8. ダイアログボックスで目的のイベントタイプまたはモデルタイプを選択し、[OK] をクリックします。  
[属性値] フィールドに属性値が表示されます。
9. [追加] をクリックします。  
[フィルタ名の入力] ダイアログボックスが表示されます。

10. フィルタの名前を入力し、[了解] をクリックします。
11. 以下のいずれかの手順を実行します。
  - [OK] をクリックしてフィルタを適用し、[イベント フィルタ] ダイアログ ボックスを閉じます。
  - [詳細を表示] ボタンをクリックして続行し、複数の詳細フィルタ間に AND/OR 関係を使用して、複雑なフィルタを作成します。



### 詳細なイベント フィルタをクリアする方法

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベント フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [詳細設定] タブをクリックします。
4. [クリア] をクリックします。
5. [OK] をクリックします。

### 詳細なイベント フィルタを削除する方法

次の手順に従ってください:

1. コンテンツ画面で [イベント] タブをクリックします。
2. [イベント] タブのツールバーの  (フィルタ) をクリックします。  
[イベント フィルタ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [詳細設定] タブをクリックします。
4. 削除するフィルタを [使用可能フィルタ] ドロップダウンリストから選択します。
5.  (削除) をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

## インターフェース情報

モデルを選択し、コンポーネント詳細画面内の [インターフェース] タブを選択することにより、デバイスモデルのインターフェースに関する情報を表示できます。 [インターフェース] タブには、選択されたデバイスの設定済みインターフェースおよびサブインターフェースのリストが、このセクションで定義されるパラメータとともに表示されます。

**注:** [名前]、[状態]、[ステータス] フィールド内のアイコンの色は、OneClick 全体にわたって、デバイスモデルステータスを示す色と同じ意味があります。

デフォルトの [インターフェース] タブ ビューには、必ずしもここに示すすべてのパラメータが表示されるわけではありません。 テーブルの非表示列を表示する方法については、「[列のカスタマイズ \(P. 44\)](#)」を参照してください。

### 名前

インターフェースの名前を指定します。

### 状態

デバイスモデルに対して有効なアラーム状態に加え、デバイスの接続ステータスを指定します。

### ステータス

インターフェースが操作可能か、操作不可能かを示します。 インターフェースは管理上無効にされることを含め、さまざまな理由で操作可能である場合があります。 値としては、[稼動中]、[ダウン]、[オフ]、[待機中] などがあります。

### タイプ

イーサネット、SONET、V.35 など、インターフェースが使用する物理レイヤインターフェース標準を指定します。

### 説明

インターフェースが物理的か論理的か、および et.2.1 などのインターフェース ID を記述します。

### 接続デバイス

現在インターフェースが接続しているデバイスの名前とステータス（緑色（稼動中）または赤色（ダウン）など）を指定します。デバイス名は、接続デバイスの [情報] タブを表示するハイパーリンクになっています。

### 接続ポート

現在ポートが接続しているデバイスのポート名です。ポート名は、現在ポートが接続しているデバイスの [インターフェース] タブを表示するハイパーリンクになっています。

### QoS ポリシー

このインターフェースに適用する QoS ポリシー名を指定します。

### インデックス

デバイス内でこのインターフェースを一意に識別する標準 RFC または独自 MIB のインデックス オブジェクトの値を指定します。

### ボード.ポート

対応するポートのデバイスのボード番号およびポート番号を指定します。たとえば、ポートがデバイスの 3 番目のスロットにあるモジュールのポート 4 である場合、[ボード.ポート] の値は 3.4 です。

### MAC アドレス

対応するインターフェースの MAC アドレスを指定します。

### IP アドレス

対応するインターフェースの IP アドレスを指定します。

### ポート速度

対応するインターフェースの接続速度を指定します。

### 二重ステータス

対応するインターフェースの二重状態を [全二重]、[半二重]、[不明]、[N/A] のいずれかで指定します。

### トランクメンバシップ

インターフェースが 802.3ad トランクのメンバーかどうかを指定します。[トランクメンバシップ] には、インターフェースがメンバーになっているトランク ID か、メンバーでない場合はゼロが表示されます。

### ネットワークリンクタイプ

インターフェースが接続しているネットワーク デバイスのタイプを説明します。有効な値は以下のとおりです。

- エンドステーションリンク
- 内部リンク
- リンクなし
- ルータリンク
- 共有アクセスリンク
- スイッチリンク
- 不明なリンク

### 合計使用率 %

インターフェースの総容量のパーセンテージとして表わされる、対応するインターフェースの使用率。着信と発信のトラフィックで帯域幅を共有するインターフェース（半二重モードのイーサネットインターフェースなど）の場合、[合計使用率 %] に対してしきい値を設定するとインターフェースの「負荷」の監視に役立ちます。

### 着信使用率 %

インターフェースの総着信容量のパーセンテージとして表わされる、対応するインターフェースの使用率。着信と発信のトラフィックが別々に専用の帯域幅を持つインターフェース（全二重モードのイーサネットインターフェースなど）の場合、[着信使用率 %] と [発信使用率 %] に対して個々にしきい値を設定する方が、インターフェースの「負荷」の監視に役立ちます。このようなしきい値設定タイプは、インターフェースのほとんどが発信トラフィックまたは着信トラフィックであると予測される場合（Web サーバまたはロードバランサのインターフェースなど）に役立つことがわかっています。

### 発信使用率 %


インターフェースの総送信容量のパーセンテージとして表わされる、対応するインターフェースの使用率。

### IF エイリアス

対応するインターフェースの MIB II オブジェクトの IF エイリアスの値を指定します。

### IF 名

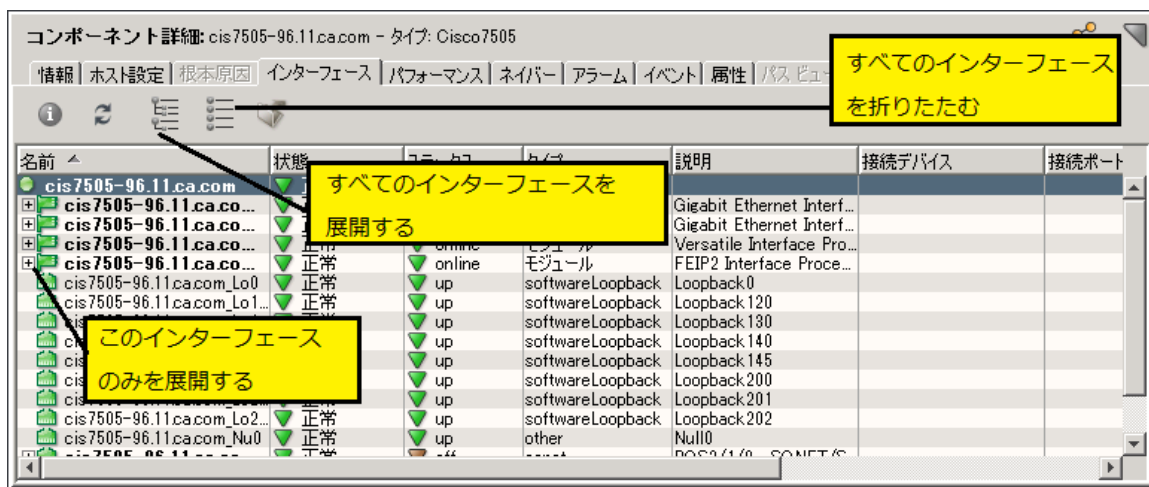
対応するインターフェースの MIB II オブジェクトの IF 名の値を指定します。

注: パフォーマンス上の理由で、[インターフェース] タブの  (更新) をクリックしても、外部属性 (IF エイリアスなど) は更新されません。すべての値を更新するには、リストで更新する特定の行を選択して、[更新] ボタンをクリックする必要があります。

## サブインターフェース

デバイスが仮想またはサブインターフェースをサポートしており、デバイスモデルに対してサブインターフェースのモデリングが有効になっている場合、CA Spectrum は、多重化された物理接続に関連付けられたエンドポイントをサブインターフェースとしてモデリングします。この例としては、物理イーサネットインターフェース上の Cisco IPSEC トンネリング、物理 ATM インターフェース上の相手固定接続 (PVC)、および物理フレームリレーインターフェース上の DCL 回線などがあります。

また、いくつかのモデリングされたインターフェースには、表示可能なサブインターフェースがあります。モデリングされたインターフェースの隣のプラス記号 (+) は、サブインターフェースが利用可能であることを示します。




インターフェースのビューを展開するためにプラス記号 (+) をクリックすることにより、サブインターフェースを個別に展開できます。または、



ボタン（[インターフェースをすべて展開]）をクリックして、モデリングされたこのインターフェースに属するすべてのサブインターフェースのビューを展開できます。

モデルまたはデバイスに対して、ネットワーク管理者がサブインターフェースのモデリングを有効にする必要があります。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理- 管理者ガイド」を参照してください。

## インターフェースのコンポーネント詳細ウィンドウ

インターフェースのコンポーネント詳細ウィンドウでは、選択されたインターフェースとその親デバイスに関する情報を表示したタブおよびサブビューにアクセスできます。インターフェースのコンポーネント詳細ウィンドウを表示するには、[インターフェース] タブでインターフェースを選択し、（情報）をクリックします。

### インターフェースしきい値サブビュー

しきい値サブビューには、インターフェース アラームのトリガレベルとリセットレベルの定義に使用されるパラメータのペアの、現在の設定が表示されます。各パラメータのしきい値設定は以下のとおりです。

- しきい値レベル：この値を越えるとアラームが生成されます。
- リセットレベル：この値を下回ると既存のしきい値アラーム状態がクリアされます。
- 許容しきい値違反時間：しきい値レベルに違反が発生してからアラームが生成されるまでの期間（秒単位）を定義します。

以下のインターフェースしきい値パラメータがしきい値サブビューに表示されます。

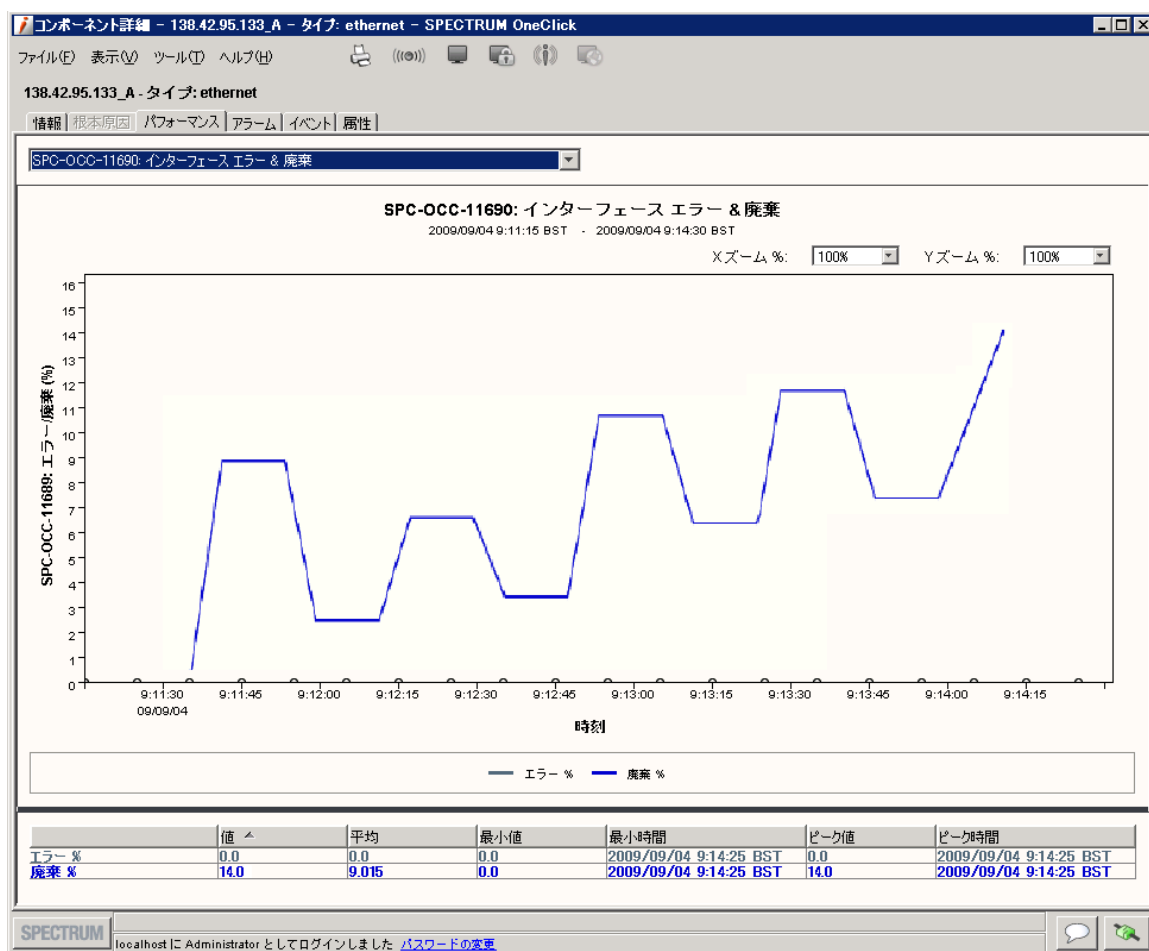
- 合計使用率%：ポートのアラーム状態をトリガする、使用済みポート容量レベルを定義します。
- 着信使用率%：ポートのアラーム状態をトリガする、使用済み着信ポート容量レベルを定義します。

- 発信使用率 % : ポートのアラーム状態をトリガする、使用済み発信ポート容量レベルを定義します。
- パケット レート合計 (パケット数/秒) : ポートのアラーム状態をトリガする、秒あたりのパケット数を定義します。
- エラー % : アラーム状態をトリガする、ポートのエラー レートを定義します。
- 廃棄 % : アラーム状態をトリガする、ポートの廃棄パケットの割合を定義します。

注: ネットワーク管理者は、これらのパラメータの値を設定することができます。詳細については、「[IT インフラストラクチャのモデリング/管理-管理者ガイド](#)」を参照してください。 .

## インターフェースのパフォーマンスビュー

選択されたインターフェースのパフォーマンスビューには、インターフェース使用率、スループット、エラー数および廃棄数のグラフがリアルタイム表示されます。ドロップダウンリストを使用して、使用可能なパフォーマンスビューから選択することができます。グラフごとにX軸とY軸のズームレベルを設定できます。各グラフには、グラフに表示されるデータを説明する凡例が表示されます。以下は、インターフェースのパフォーマンスビューの例です。



## モデル関係の強調表示

OneClick の強調表示機能を使用して、トポロジビューにまだ表示されていないネットワーク内の以下のモデル関係を分離して表示することができます。

- ルータ冗長性
- VPN
- VLAN
- LSP パス

トポロジビューでは、これらのモデル関係は区別して表示されないため、ネットワークのコンテキスト内に描画することは困難です。強調表示を使用すると、これらのモデル関係が強調され、ネットワークトポロジ内の位置が示されます。

たとえば、強調表示機能を使用して、トポロジビューに表示する LSP パスを選択することができます。このビューから LSP パス情報を表示すると、MPLS 環境でパスを構成しているデバイスをより簡単に理解することができます。このビューからは、パスのパフォーマンスに影響を与えているアラームデバイスがあるかどうかを確認することもできます。


**注:** MPLS マネージャをインストールしていない場合、LSP Path スポットライトは使用できません。VPN Manager をインストールしていない場合、VPN スポットライトは使用できません。

### [トポロジ]タブでのモデル関係の強調表示

OneClick の強調表示機能を使用して、ネットワーク上に構成されている VLAN、VPN、LSP パス、およびルータ冗長性グループを表示することができます。これらのアイテムがネットワーク上で有効化され、構成されている場合にのみ、強調表示することができます。たとえば、ネットワーク管理者は VLAN を設定します。

以下の例は VLAN を強調表示する方法について説明していますが、この手順は VPN、LSP パス、およびルータ冗長性グループにも適用できます。

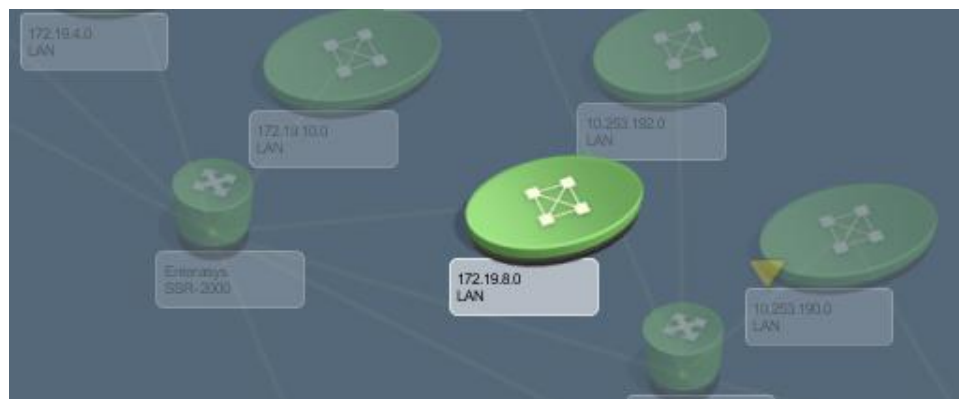
次の手順に従ってください:

1. 目的のトポロジまたはコンテナをナビゲーション画面で選択します。
2. [トポロジ] タブをクリックします。
3. [トポロジ] タブのツールバーの [VLAN リスト] で  (スポットライトビュー) をクリックします。  
  
[トポロジ] タブのビューでネットワーク内の VLAN が強調表示され、[VLAN リスト] ダイアログボックスが表示され、選択したトポロジ内のすべての VLAN がリストされます。
4. 強調表示する VLAN をリストから選択し、[情報] ボタンをクリックします。  
  
[VLAN リスト] ダイアログボックスが展開されて、OneClick タブが表示されます。このタブは、選択した VLAN に関する情報を提供します。

## モデリングされたデバイスのハイライト表示

ユニバース、または他のコンテナに対するトポロジビューには、特定のデバイスまたはモデルを検索することが難しい、多くのモデルが含まれることがあります。OneClick のハイライト機能を使用すると、トポロジビューのモデルをすばやく見つけることができます。

OneClick のハイライトモードを使用して、モデリングされたデバイスおよびコンテナをトポロジビューでハイライト表示することができます。ハイライトモードで、強調表示されたデバイス以外のデバイスはすべて半透明になります。以下のイメージで表示されるように、強調表示されたデバイスは目立ちます。



### ハイライトモードを使用して単一モデルを特定する方法

次の手順に従ってください:

1. トポロジビューに表示するコンテナを [エクスプローラ] タブで選択します。
2. コンテンツ画面で [トポロジ] タブをクリックして、トポロジを表示します。
3. ハイライト表示するモデルを [エクスプローラ] タブで探して選択します。
4. Shift キーを押します。  
トポロジビューと選択したデバイスが表示されます。
5. (オプション) トポロジの表示可能領域内にハイライト表示されたモデルが表示されていない場合は、水平スクロールバーと垂直スクロールバーを使用してトポロジビューを移動し、ハイライト表示されたモデルを探します。
6. Shift キーを再度押して、ハイライトモードを終了します。  
[トポロジ] タブの元の表示に戻ります。

### ハイライトモードを使用して複数のモデルを特定する方法

次の手順に従ってください:

1. トポロジビューに表示するコンテナを [エクスプローラ] タブで選択します。
2. コンテンツ画面で [トポロジ] タブをクリックして、トポロジを表示します。
3. Shift キーを押したままにします。トポロジビュー内のアイコンが半透明になります。
4. [エクスプローラ] タブでハイライト表示するモデルの上にカーソルを置きますが、選択はしません。  
モデルがトポロジビューでハイライト表示されます。

**注:** ハイライト表示されたデバイスを見つけるために、[トポロジ] タブでスクロールバーを使用します。選択されていないため、トポロジビューではハイライト表示されたデバイスを表示するよう調節されません。

5. 次にハイライト表示するモデルにカーソルを移動します。 [エクスプローラ] タブでいずれかのモデルの上にカーソルを移動すると、トポロジビューでハイライト表示されます。
  - グローバル コレクションなど、他のモデルを含むモデルの上にカーソルを置くと、そのモデル内でトポロジに表示できるすべてのデバイスがハイライト表示されます。
  - **OneClick** で設定されたマルチキャスト グループの一部であるデバイスの上にカーソルを置くと、そのマルチキャスト グループ内でトポロジに表示できるすべてのデバイスがハイライト表示されます。
6. **Shift** キーを離して、ハイライト モードを終了します。  
[トポロジ] タブの元の表示に戻ります。

## 接続ステータス インジケータ

SpectroSERVER への接続ステータスが変わると、**OneClick** コンソールに視覚的なインジケータが表示されます。接続が失われると、**OneClick** コンソールの周囲の境界が赤に変わります。接続がセカンダリ SpectroSERVER に切り替わると、境界は黄色に変わります。選択されたデバイスへの接続が失われた場合、[情報] タブ、[インターフェース] タブ、[パフォーマンス] タブも、オレンジの境界を表示します。茶色の境界は、選択されたデバイス モデルが保守モードであることを示します。


### 接続ステータスの確認

**OneClick** は、サーバとサービスに接続のステータスを提供します。 [接続ステータス] ダイアログ ボックスには接続ステータスが表示され、**OneClick** コンソールと **OneClick** アドオンアプリケーションが使用するサーバおよびサービスのステータス ログが表示されます。このダイアログには、以下の情報が表示されます。

- **OneClick** サーバによって提供される Web サービス
- SpectroSERVER によって提供されるランドスケープ サービス
- SpectroSERVER によって提供されるイベント サービス


他の OneClick アプリケーションから [接続ステータス] ダイアログ ボックスを表示すると、他のサービスおよびサーバの接続ステータスも使用できます。

以下の手順に従います。

- OneClick ステータス バー内の  をクリック (接続 <status>) します。  
[接続ステータス] ダイアログ ボックスに、Web サービス、ランドスケープ サービス、およびイベント サービスのステータスが表示されます。

## OneClick メッセージ

CA Spectrum 環境でこのオプションをサポートするよう設定されている場合、OneClick 管理者からのメッセージを受信できます。

[メッセージ] アイコン () がステータス バーに表示されます。未開封メッセージがあるとき、[メッセージ] アイコンには + 記号が表示されます。[メッセージ] アイコンをクリックすると (これにより、[メッセージ] ダイアログ ボックスが開く)、メッセージが取得されます。[メッセージ] ダイアログ ボックスでは、OneClick 管理者によってユーザに送信されるメッセージにアクセスできます。

## OneClick のスケジュール

OneClick のアクションが、必要に応じて繰り返し実行されるようにスケジュールすることができます。スケジュールには、以下の情報が含まれます。

- 開始日
- 開始時刻と終了時刻
- 期間 (時間単位)
- 繰り返しのオプション
- 説明

モデリングされたデバイスにスケジュールを適用すると、デバイスを管理する SpectroSERVER のタイム ゾーンで指定された開始時刻にイベントが開始され、終了時刻に終了します。

## スケジュールのアクセス

[ロケータ] タブのスケジュール検索機能を使用して、OneClick に既存のスケジュールを探ることができます。スケジュールの検索方法については、「ネットワークの検索」を参照してください。検索を実行し、[結果] リストに1つ以上のスケジュールが表示された場合は、そのスケジュールに関する情報にアクセスできます。

## スケジュールの情報ビュー

スケジュールの [情報] タブには、スケジュールのパラメータを表示するサブビューがあります。表示されるスケジュール情報は、SPECTRUM 環境の一部としてインストールされている OneClick アドオンアプリケーションによって異なります。

スケジュールの検索実行後に、スケジュールの情報ビューにアクセスできます。[結果] リストからスケジュールを選択し、コンポーネント詳細画面で [情報] タブを選択します。

## スケジュールの一般情報サブビュー

選択されたスケジュールの [情報] タブの一般情報サブビューには、以下のパラメータが表示されます。

### 作成者

スケジュールを作成したユーザを示します。CA Spectrum に付属のスケジュールでは、作成者として CA が表示されます。

### 作成時間

スケジュールが作成された時刻を示します。

### 状態

スケジュールがアクティブかどうかを示します。

**注:** ディスカバリの設定と関連付けられたスケジュールなど、期間のないスケジュールは常に [非アクティブ] として表示されます。

### 使用中

スケジュールがデバイス、サービス、または他のモデルに適用されているかどうかを示します。

### 説明

スケジュールを説明するオプションのテキストです。

## 保守がスケジュールされたアイテム

[保守がスケジュールされたアイテム] サブビューには、保守スケジュールとしてスケジュールが適用されるすべてのデバイスが表示されます。テーブルのいずれかの見出しを右クリックすると、このテーブルに表示できる他の列のリストが表示されます。

## このスケジュールで予定されているディスクバリ

[このスケジュールで予定されているディスクバリ] サブビューには、このスケジュールが適用されるすべてのディスクバリ設定が表示されます。OneClick ディスクバリおよびモデリング設定の詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理- 管理者ガイド」を参照してください。

## スケジュールの作成

一般情報サブビューの [保守モード] フィールドなど、[スケジュール] ボタンが表示されていればどこからでもクリックして、独自のスケジュールを作成することができます。

次の手順に従ってください:

1. [スケジュール] をクリックします。  
[スケジュールの追加/削除] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [作成] をクリックします。  
[スケジュールの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 必要に応じてフィールドに入力します。
4. [OK] をクリックします。  
[スケジュールの作成] ダイアログ ボックスが閉じ、作成したスケジュールが [現在のスケジュール] リストに表示されます。
5. [OK] をクリックします。  
[スケジュールの変更] ダイアログ ボックスが表示され、行った変更が適用されていることを示します。

## DSS 環境の OneClick スケジュール

分散 SpectroSERVER (DSS) 環境では、複数の SpectroSERVER が異なるタイムゾーンに存在する場合があります。各 SpectroSERVER は、すべてのスケジュールを現地時間として解釈します。スケジュールを作成して、異なるランドスケープで管理されているデバイスに適用すると、スケジュールされたアイテムは各タイムゾーンのローカルの指定時刻に開始および終了します。OneClick および CA Spectrum では、異なるタイムゾーンの間で同時に開始および終了されるようスケジュールを関連させることはできません。以下の例は、DSS 環境でタイムゾーンとスケジュールがどのように動作するかを説明したものです。

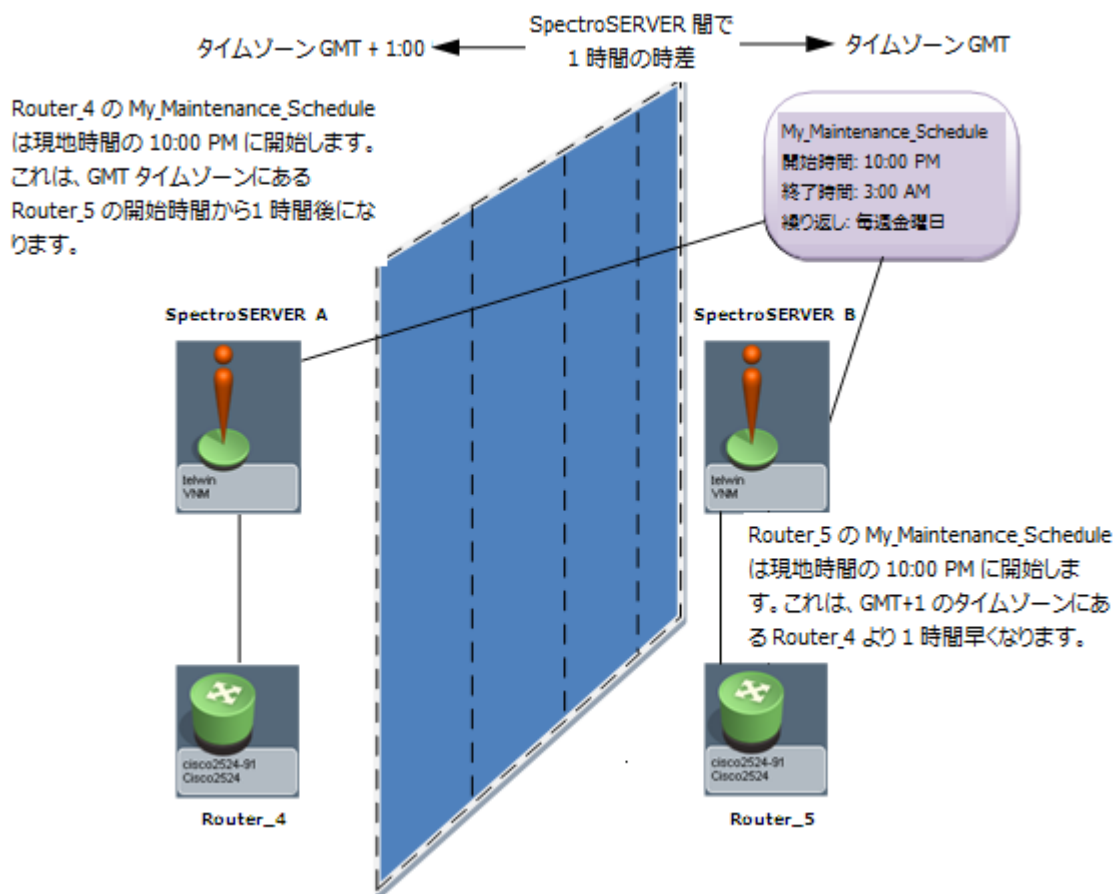
### 異なるタイムゾーンにあるデバイスにスケジュールを適用する

My\_Maintenance\_Schedule という名前のスケジュールがあり、デバイスを午後 10:00 ~ 午前 3:00 まで保守モードにするよう指定しているとします。My\_Maintenance\_Schedule は、GMT タイムゾーンにある Router\_5 と、GMT+1 時間のタイムゾーンにある Router\_4 に適用されます。

My\_Maintenance\_Schedule をこれら 2 台のデバイスに適用すると、以下のようになります。

- Router\_5 は GMT の午後 10:00 に保守モードに入り、GMT の午前 3:00 に保守モードを終了します。
- Router\_4 は GMT+1 の午後 10:00 (GMT の午後 11:00) に保守モードに入り、GMT+1 の午前 3:00 (GMT の午前 4:00) に保守モードを終了します。

以下の図は、この例を説明したものです。



## 繰り返しスケジュール

スケジュールを作成するとき、繰り返しを指定できます。繰り返しのスケジュールを使用するとき、以下のことを考慮します。

- スケジュールが実行される場合の [開始日] コントロール。開始日を指定する際は以下の点を考慮します。
  - 開始日はデフォルトで今日の日付になります。また、ドロップダウンカレンダーから [今日] ボタンを使用することにより、今日の日付を指定することもできます。繰り返しの定義の場合、[今日] ボタンの使用によって明示的に今日の日付を指定しない限り、今日の日付のデフォルト値は無視されます。
  - [開始日] フィールドが変更されない場合、スケジュールはすぐに実行されます。すべてのスケジュールされたアクションは、スケジュールに適合した日時の次のインスタンスで実行されます。
  - [開始日] フィールドが任意の方法で変更される場合、今日の日付か将来の日付にかかわらず、繰り返しの定義に適合する、いずれかの日である必要があります。たとえば、繰り返しの定義でアクションが毎週土曜日に実行されるよう指定する場合、[開始日] は土曜日である必要があります。
- [日単位]、[週単位]、[月単位] の繰り返しの定義では、1年の時間枠をサポートします。たとえば、x週間ごとに実行するアクションを指定する場合、51を超えることはできません。この値は、1年未満の1単位です。これより大きい単位にするには、[年単位]を使用します。

**注:** ユーザは1年の時間枠を超える値を手動で入力できますが、繰り返しの定義のデフォルトは、入力した最後の有効な値です。

- 期間の設定されていないスケジュールが設定されている場合（ディスカバリの設定と関連付けられたスケジュールの場合など）、ロケータ検索の検索結果リストで表示すると、その状態は常に [非アクティブ] として表示されます。それが何らかのタスクと関連付けられるかどうかを判断するために [使用中] 列を確認します。その関連付けられたタスクを確認するには、スケジュールを選択し、コンポーネント詳細画面内のその [情報] タブを表示します。
- スケジュールが作成された後、その定義を変更することはできません。タスクがスケジュールされる時間または期間を変更するには、新しいスケジュールを作成する必要があります。また、新しいスケジュールを使用するには関連付けられたタスクを変更する必要があります。



# 第 5 章: デバイスの保守モードとハイバネーションモード

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[保守モードとハイバネーションモード \(P. 93\)](#)

[保守モードまたはハイバネーションモードのデバイスのイベントおよびアラームの中断 \(P. 101\)](#)

## 保守モードとハイバネーションモード

OneClick の保守モードとハイバネーションモードを使用して、モデリングされたデバイスとそのコンポーネントへの管理トラフィックを中断させることができます。モデリングされたデバイスが保守モードまたはハイバネーションモードであるとき、SpectroSERVER はそのデバイスのすべての SNMP トラップを引き続き受信して処理します。ただし、デバイスまたはそのコンポーネントのイベントまたはアラームは生成されません。

保守モードは、保守モードオプションを無効にするようユーザーに要求してから、デバイスが通常の管理トラフィックを再開できるようになる点で、ハイバネーションモードとは異なります。対照的に、SpectroSERVER が 1 セットの成功したポーリングの後にデバイスとの成功した通信を検出するとすぐに、ハイバネーションモードは自動的に通常の管理トラフィックを再開します。

ハイバネーションモードはデバイスモデルの保守モードより優先されます。ただし、保守モードで、デバイスモデルにインターフェースモデルがある場合、それらのモデルは、ハイバネーションデバイスモデルが通常の管理通信を再開した後、保守モードのままになります。

デフォルトでは、デバイスモデルを保守モードまたはハイバネーションモードに設定すると、そのインターフェースモデルおよびアプリケーションモデルも保守モードまたはハイバネーションモードに入ります。モデリングされたデバイスが保守モードまたはハイバネーションモードに入ると、そのトポロジアイコンは茶色で表示されます。茶色のアラームは、保守モードまたはハイバネーションモードにあるすべてのデバイスに対して表示されますが、デバイスモデルから保守モードまたはハイバネーションモードを継承したアプリケーションモデルおよびインターフェースモデルには表示されません。

### デバイスの保守モードの設定

デバイスの保守モード設定は、情報ビューの一般情報サブビューにあります。コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面にある情報ビューを見つけてください。

**次の手順に従ってください:**

1. ナビゲーション画面、トポロジビュー、またはリストビューでデバイスを選択します。
2. [情報] タブをクリックします。
3. 一般情報サブビューを展開します。
4. [保守] 設定の横の [設定] をクリックし、ドロップダウンリストから [はい] を選択します。

デバイスが保守モードに入り、アイコンが茶色に変更されました。

## 保守モードのスケジュール

デバイスが保守モードに入ったとき、保守スケジュールを適用することにより、スケジュールできます。既存のスケジュールを適用することも、新しい保守モードスケジュールを作成することもできます。

**注:** OneClick および CA Spectrum が DSS 環境で複数のタイムゾーンにわたってスケジュールを適用する方法については、「[OneClick のスケジュール \(P. 86\)](#)」を参照してください。

次の手順に従ってください:

1. 保守モードスケジュールを設定するデバイスを選択します。
2. [情報] タブをクリックします。
3. 必要に応じて一般情報サブビューを展開し、[保守モード]を見つけ、[スケジュール] をクリックします。

[スケジュールの追加/削除] ダイアログ ボックスが表示されます。デバイスに適用されている保守スケジュールがあれば、[現在のスケジュール] 列に表示されます。

**注:** [ツール] - [ユーティリティ] - [スケジュールの管理] をクリックしても、[スケジュールの追加/削除] ダイアログ ボックスを表示することができます。

4. 以下のいずれかの操作を実行します。
  - **既存のスケジュールをデバイスに適用するには**、[使用可能スケジュール] 列からスケジュールを選択し、左矢印ボタンをクリックして、[現在のスケジュール] 列に移動します。  
デバイスには、複数のスケジュールを適用することができます。
  - **既存のスケジュールをデバイスから削除するには**、[現在のスケジュール] 列からスケジュールを選択し、右矢印ボタンをクリックして、[使用可能スケジュール] 列に移動します。

- **新しいスケジュールを作成するには**、[作成] ボタンをクリックします。すると、[スケジュールの作成] ダイアログボックスが表示されます。[開始日]、[時間] - [開始] [終了] または [期間] を選択することによって、スケジュールを設定します。[繰り返しのオプション] 要素を選択します。

**注:** [繰り返しのオプション] 設定を [なし] のままにすることによって、一度限りの保守モードウィンドウを作成することができます。作成しているスケジュールを適切に定義する [説明] を入力します。

5. [OK] をクリックします。

新しいスケジュールが [スケジュールの追加/削除] ダイアログボックスの [使用可能スケジュール] 列に表示されます。

6. [OK] をクリックします。

保守モードのスケジュールの変更がデバイスに適用されます。

## デバイスで保守スケジュールが設定されているかどうかの確認

[リスト] タブまたはデバイスの [情報] タブから、デバイスで保守スケジュールが設定されているかどうかを確認できます。

### 特定のデバイスで保守スケジュールが設定されているかどうかを確認する方法

次の手順に従ってください:

1. [リスト] タブまたは [トポロジ] タブのいずれかからデバイスを選択します。
2. コンポーネント詳細画面で [情報] タブをクリックします。
3. 一般情報サブビュー内の [保守モード] セクションを表示します。

[割り当てられた保守スケジュール] リストには、このデバイスに割り当てられている保守スケジュールが表示されます。

## 任意のデバイスで保守スケジュールが設定されているかどうかを確認する方法

次の手順に従ってください:

1. [リスト] タブをクリックします。
2. [割り当てられた保守スケジュール] 列の情報を確認します。  
**注:** [割り当てられた保守スケジュール] 列が見えない場合は、この列を追加してこの手順を完了します。  
[割り当てられた保守スケジュール] 列は、各デバイスに割り当てられている保守スケジュールを表示します。 デバイスに複数のスケジュールが割り当てられている場合、「表示」リンクが表示されます。
3. (オプション) デバイスに複数のスケジュールが割り当てられている場合、以下の操作を実行します。
  - a. [表示] リンクをクリックします。  
[割り当てられた保守スケジュール] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. このデバイスに割り当てられているスケジュールを確認します。
  - c. [閉じる] をクリックして、[割り当てられた保守スケジュール] ダイアログ ボックスを閉じます。

詳細情報:

[テーブル基本設定 \(P. 44\)](#)

## デバイスのハイバネーション モードの設定

モデリングされたデバイスのコンポーネント詳細画面で、[ハイバネーションモード] 属性は、デバイスがハイバネーションモードであるかどうかを示します。デバイス モデルがハイバネーションモードであるとき、事前定義された通信の試行回数が成功するまで、デバイスとそのコンポーネントへの管理トラフィックは一時停止になります。デバイスの接続が可能になると、デバイス モデルは自動的に通常の管理通信を再開します。

### 通信の試行回数の変更

デフォルトの通信の試行回数は3で、試行と試行のあいだにポーリング間隔（デフォルトは60秒）があります。CA Spectrum コマンドラインインターフェース（CLI）または OneClick 属性エディタを使用して、デフォルトの通信の試行回数を変更することができます。CA Spectrum CLI の詳細については、「コマンドラインインターフェース ユーザガイド」を参照してください。

どちらの方法でも、GlobalConfig mtype 0x00010470 を変更する必要があります。属性 HibernationCommSuccessTries 0x12acb は、デフォルト値3に初期設定されています。

注: また、属性エディタを使用して、この値を変更できます。詳細については、「IT インフラストラクチャのモデリング/管理 - 管理者ガイド」を参照してください。

### メンテナンスの後にハイバネート

デバイスのスケジュール済み保守が終了したとき、デバイスがハイバネーションモードに入るかどうかを指定できます。[保守スケジュール]には、自動的にハイバネートするオプションが含まれています。

次の手順に従ってください:

1. 保守後にハイバネーションモードにするデバイスを選択します。
2. 「[保守モードのスケジュール](#) (P. 95)」の説明に従って、デバイスの保守モードのスケジュールを設定します。
3. コンテンツ画面またはコンポーネント詳細画面で[情報]タブをクリックし、必要に応じて一般情報サブビューを展開します。
4. [メンテナンスの後にハイバネート]設定を見つけ、[設定]をクリックし、ドロップダウンリストから[はい]を選択します。

スケジュール済み保守ウィンドウが閉じた後、デバイスは自動的にハイバネートします。ハイバネーションモードでは、デバイスは3回ポーリングされ、成功した場合は保守モードでなくなります。

## インターフェース モデルの保守モードまたはハイバネーション モードの設定

デバイス インターフェースのコンポーネント詳細画面の [保守モード] オプションで、インターフェース モデルを保守モードにします。この操作は、インターフェースの管理を一時停止します。ただし、CA Spectrum は、引き続きそのデバイスおよび他のインターフェースで通常管理を実行します。

**注:** 保守モードとは異なり、ハイバネーションはデバイスだけに適用されます。インターフェースを単独でハイバネーションモードにすることはできません。

保守モードまたはハイバネーション モードで、以下の条件がインターフェース モデルに適用されます。

- ハイバネーション モードのインターフェースは茶色のアラームで表示されます。
- ポートに対するアラームは作成されません。
- ポートに対するイベントはログ記録されます。
- インターフェースが通常管理を再開するまで、ポート モデルに対してポーリング、ログ記録、または他のデバイス通信は実行されません。
- 送信されたリンク ダウン トラップは無視され、アラームは生成されません。
- 接続に対して [ライブ パイプ数] オプションが有効で、エンドポイントのいずれかがハイバネーション モードの場合、トポロジ ビュー内のパイプの色は茶色に変わります。そのポートのステータス ポーリングは中止されます。

接続が 2 つのポートへの WA\_Link モデル接続を使用してモデリングされ、そのポートのいずれかがハイバネーション モード（または保守モード）の場合、WA\_Link モデルおよび WA\_Segment モデルに対してアラームが作成されます。OneClick トポロジ ビュー内の WA\_Link アイコンは茶色に変わります。このリンクに対して [ライブ パイプ数] が有効になっている場合、1 つのポートが機能していれば、パイプは緑色のままです。2 番目のポートがダウンするか、到達不能になった場合、パイプの状態の色は灰色に変わります。

CA Spectrum がハイバネーションモードまたは保守モードのポートに接続しているデバイスモデルとの接続を失った場合、「デバイスはポーリングへの応答を停止しました」というアラームは、そのデバイスおよびすべての隣接デバイスに対して抑制されます。ハイバネーション（または保守）モードにあるポートとの相対的な位置によって `device_contact_lost` アラームが抑制された場合、ハイバネーションまたは保守モードアラームには、接続が失われたそれらのデバイスの [影響度] 属性と [重大度] 属性が反映されます。接続を失ったこれらのデバイスの、その保守アラームのアラーム詳細画面で [影響度] タブを確認してください。

### 保守またはハイバネーションモードにおけるワイドエリアリンクモデルの配置

ワイドエリアリンクモデルは、2つのルータインターフェース間の広域接続を表し、次のものが含まれます。

- トポロジビューに表示される `WA_Link` モデル。
- `WA_Link` モデルに存在し、2つのルータインターフェースをつなぐ `WA_Segment` モデル。

保守またはハイバネーションモードにワイドエリアリンクを配置するために、`WA_Link` と `WA_Segment` モデルの設定を変更する必要があります。

`WA_Link` および `WA_Segment` モデルの両方のコンポーネント詳細画面で、保守モードまたはハイバネーションモードにワイドエリアリンクモデルを配置するには、[保守モード] または [ハイバネーションモード] を [はい] に設定します。接続されたルータインターフェースの通常管理が続行している間、ワイドエリアリンクの管理は一時停止されます。

保守またはハイバネーションモードにある場合、WA\_Link および WA\_Segment の両方のモデルが、茶色で表示されます。2つの接続されたルータ インターフェースの管理は続行されます。また、イベントとアラームはそれらのインターフェース上で引き続き生成されます。

注: また、ルータ インターフェースを保守モードにすることができます。これにより、イベントとアラームがワイドエリアリンクでどのように生成されるかが詳細にカスタマイズできる制御が可能になります。「[インターフェースモデルの保守モードまたはハイバネーションモードの設定 \(P. 99\)](#)」を参照してください。

保守またはハイバネーションモードからワイドエリアリンクモデルを取り出すには、WA\_Link と WA\_Segment の両方のモデルの設定をそのように変更します。

## 保守モードまたはハイバネーションモードのデバイスのイベントおよびアラームの中断

モデルが保守モードまたはハイバネーションモードにあると、そのモデルのイベントは処理されません。これには、通常はモデルのアラームをクリアするイベントや、アラームを生成するイベントが含まれます。例:

モデルが保守モードに入る前にデバイス モデルで link\_down イベントがアラームを生成し、デバイス モデルが保守モードにある間に link\_up イベントが発生した場合、link\_up イベントが処理されないため、SpectroSERVER はアラームをクリアしません。

この例では、コンポーネント詳細画面でこのデバイスの保守モードオプションを手動で無効にするまで、SpectroSERVER は保守モードのモデリング デバイスへの通常管理トラフィックを再開しません。

このとき、モデリング デバイスが保守モードではなくハイバネーションモードにあった場合は、デバイスへの一連の通信の試行が成功して初めてデバイスとの通常管理トラフィックを再開します。

詳細情報:

[デバイスの保守モードの設定 \(P. 94\)](#)

[デバイスのハイバネーションモードの設定 \(P. 97\)](#)

## セカンダリアラームと保守モードのデバイス

デバイスが保守モードにある場合、セカンダリアラームを表示するか非表示にするかを **CA Spectrum** で設定できます。[基本設定]ダイアログボックスの [保守モード時にセカンダリを表示] パラメータは、この動作を制御します。このパラメータが有効の場合、デバイスが保守モードに入ると、セカンダリアラームが表示されます。

**注:** デバイスがハイバネーションモードの場合は、セカンダリアラームを表示または非表示にすることはできません。

セカンダリアラームの表示オプションはデフォルトでは無効になります。デバイスが保守モードにあるとき、セカンダリアラームは非表示にされ、後でデバイスが保守モードを終了したときに表示されます。

**注:** [保守モード時にセカンダリを表示] 設定は、プライマリおよびセカンダリアラームが [基本設定] ダイアログボックスの [アラームフィルタ] 設定で有効な場合にのみ、適用されます。

## インターフェースとアプリケーションの茶色のアラームの表示

**CA Spectrum** コマンドラインインターフェース (CLI) を使用して、デバイスモデルから保守モードまたはハイバネーションモードを継承したインターフェースまたはアプリケーションの茶色のアラームを表示できます。

- 保守モードを継承したインターフェースモデルに対して茶色のアラームを生成するには、デバイスモデル属性 **0x00012a7a** (rollMMAlarmToIF) を「はい」に設定します。
- 保守モードを継承したアプリケーションモデルに対して茶色のアラームを生成するには、デバイスモデル属性 **0x00012a7b** (rollMMAlarmToApp) を「はい」に設定します。

**注:** 詳細については、「コマンドラインインターフェース ユーザガイド」を参照してください。

# 第 6 章: OneClick からのデータとイメージの エクスポート

---

このセクションには、以下のトピックが含まれています。



[テーブルデータのエクスポート \(P. 103\)](#)

[トポロジビューをイメージファイルとしてエクスポート \(P. 105\)](#)

## テーブル データのエクスポート

OneClick からファイルにテーブル データをエクスポートできます。テーブル データは [アラーム] タブ、 [リスト] タブ、および他のタブからエクスポートできます。

次の手順に従ってください:

1. ツールバーに [エクスポート] ボタン  (エクスポート) があるテーブルに移動します。
2.  (エクスポート) をクリックします。  
[テーブル データをファイルにエクスポート] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 以下の情報を入力します。

### 保存先

エクスポートされたデータ ファイルを保存する場所を指定します。

### 保存タイプ

エクスポートされたデータを保存する際に使用するファイル タイプを指定します。

### ファイル名

エクスポートされたデータ ファイルの名前を定義します。

### ファイル タイプ

使用するファイル フォーマットのタイプを指定します。以下のファイル形式がエクスポートでサポートされています。

- カンマ区切り (CSV)
- タブ区切りのテキスト
- HTML

4. ファイルを保存する場所を選択して、[保存] ボタンをクリックします。

ファイルは、選択したディレクトリに保存されます。

## テーブル データのコピーと貼り付け

OneClick テーブル データを外部アプリケーションにコピーして貼り付けることができます。以下の手順では [アラーム] テーブルを例として使用していますが、この手順は OneClick の他のテーブルにも使用できます。

### 次の手順に従ってください:

1. エクスポートするアラームをコンテンツ画面の [アラーム] タブで選択します。

[アラーム] リストのアラームをすべて選択するには、任意のアラームをクリックして **CTRL+A** キーを押します。

2. タブ区切りのテキストとして選択したアラームをコピーします (**Ctrl+C**) 。

3. スプレッドシート アプリケーションまたはテキスト エディタを開きます。

4. **Ctrl+V** キーを押してタブ区切りのテキストをドキュメントに貼り付けます。

[アラーム] テーブルのデータが、選択したスプレッドシート アプリケーションまたはテキスト エディタに表示されます。

## ボード.ポート データを格納したエクスポート済み CSV ファイルの修正

ボード.ポート データを格納したテーブルを CSV にエクスポートして Microsoft® Excel で開くと、末尾のゼロが切り捨てられます。たとえば、ボード.ポートの値が 2.10 の場合、スプレッドシートでは「2.1」と表示されます。TXT または HTML 形式にエクスポートした場合、末尾のゼロは切り捨てられません。ただし、いくつかの手順を実行して、末尾のゼロが切り捨てられた、エクスポート済みの CSV ファイルを修正できます。

次の手順に従ってください：

1. CSV ファイル名を <filename>.csv から <filename>.txt に変更します。
2. Microsoft Excel で [ファイル] - [開く] を選択します。
3. [ファイルの種類] ドロップダウンリストから [テキストファイル] を選択します。
4. ファイルを選択して [開く] をクリックします。  
[テキストファイルウィザード] ダイアログボックスが表示されます。
5. [区切り] を選択し、[次へ] をクリックします。
6. カンマを選択し、[次へ] をクリックします。
7. 末尾のゼロのあるデータが含まれる列を選択します。
8. [列のデータ形式] セクションで [文字列] を選択します。
9. [完了] をクリックします。

Microsoft Excel でファイルを開きます。末尾のゼロが残っています。


## トポロジビューをイメージファイルとしてエクスポート

トポロジビュー、Neighbors Topology ビュー、リンク情報ビューなどいくつかの OneClick ビューは、イメージとしてエクスポートできます。エクスポートにより、Portable Network Graphics (PNG) ファイルが作成されます。

注：イメージは、ビューの現在のズーム レベルに従って保存されます。

次の手順に従ってください:

1. 目的のトポロジまたはコンテナをナビゲーション画面で選択します。
2. [トポロジ] タブをクリックします。

3.  (エクスポート) をクリックします。

[名前を付けて保存] ダイアログ ボックスが表示されます。

4. ファイルの保存先を選択し、ファイル名を入力して、[保存] ボタンをクリックします。

ファイルは、選択したディレクトリに<filename>.png として保存されます。

**重要:** エクスポートする最小イメージサイズのデフォルト設定は **640x480** ピクセルです。トポロジビューをエクスポートする際は、それより大きいイメージを作成できます (**4000x4000** ピクセル以上)。過度のサイズは、OneClick におけるメモリ不足エラーを引き起こす場合があります。その場合は、トポロジビューでズームアウトして、エクスポートするイメージのサイズを小さくすることができます。または、クライアントのメモリ設定を増やすように OneClick 管理者に依頼します。

# 付録 A: キーボード ショートカット

---

OneClick コンソールでは、以下のキーボード ショートカットを利用できます。

## CTRL + P キー

[印刷] ダイアログ ボックスが表示され、印刷物および使用するプリンタを指定することができます。

## CTRL + G キー

デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスに ICMP Ping を送信します。

## CTRL+T キー

Telnet を使用して、デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスとの通信セッションを確立します。

## Ctrl + H キー

セキュア シェル (SSH) を使用して、デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスとの暗号化通信セッションを確立します。

## Ctrl + L キー

デバイスをモデリングする SpectroSERVER から、選択されたデバイスをポーリングします。

## CTRL + W キー

Web 管理。選択されたデバイスの IP アドレスを使用してブラウザを起動します。WebAdminURL 属性を持つモデルに対してのみ使用可能です。

## ALT + 左方向キー

前のコンテナまたはデバイスに戻ります。

## ALT + 右方向キー

戻った後で、コンテナまたはデバイスに進みます。

## ALT + V、S キー

ステータス バーの表示/非表示を切り替えます。

### ALT + V、N キー

ナビゲーション画面の表示/非表示を切り替えます。

### ALT + V、C キー

コンテンツ画面の表示/非表示を切り替えます。

### ALT + V、D キー

コンポーネント詳細画面の表示/非表示を切り替えます。

### Alt + H キー

[ヘルプ]メニューが表示され、CA Spectrum サポート、CA Spectrum トレーニング情報、および CA Spectrum マニュアルにアクセスできます。